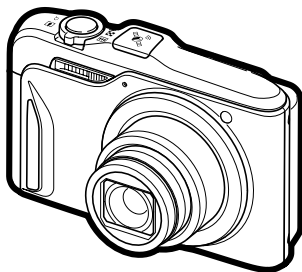
MA1110-D

J Z

デジタルカメラ

EX-H20G

取扱説明書
（保証書付き）

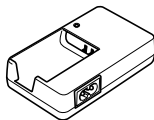
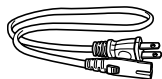
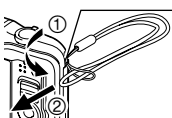
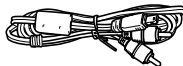
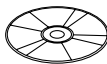
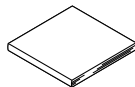
はじめにご覧ください（基本的な操作）
⇒ 16ページ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://dc.casio.jp/）またはカシオホームページ（http://casio.jp/）でご覧になることができます。

ユーザー登録のおすすめ
ユーザー登録していただくと、サポート情報の配信などをさせていただきます。下記サイトから登録手続きを行ってください。
http://casio.jp/dc/

K1350FCM1PKC

CASIO®

そろっていますか

箱を開けたら、以下のものがすべてそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 本機に搭載されている地図データ・おすすめ撮影スポットデータ・地名データは、個人として本機とともに使用するほかは、権利者に無断で使用することはできません。
- 地図データ・おすすめ撮影スポットデータ・地名データは実際と異なる場合があります。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 本機のハイブリッドGPS機能は、個人使用のデジタルカメラ用として設計・製造されたものであり、航空機、車両、人などの航法装置、および測量用として使用できません。そのため、そのような目的で位置情報を利用したことによる損害が発生しても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Transport、Dynamic Photo Manager、YouTube Uploader for CASIO使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

静止画や動画を再生する 86

再生時のその他の機能（再生機能） 96

Hybrid-GPS（ハイブリッドGPS）機能を使う 109

ダイナミックフォト機能 135

プリント(印刷)する 139

パソコンを利用する 147

その他の設定について 175

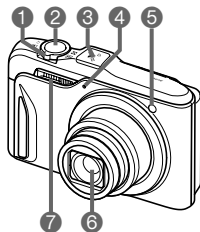
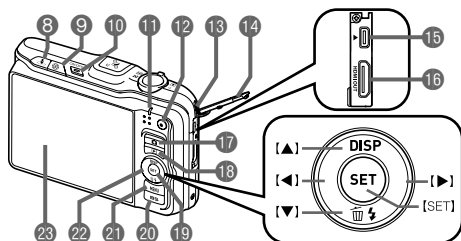
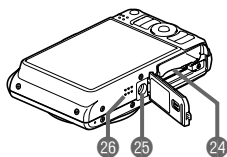
液晶モニターの表示内容を切り替える　188

付録　190

各部の名称

各部の説明が記載されている主なページを( )内に示します。

■ カメラ本体

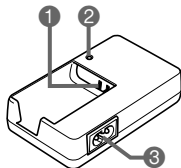
前面 **後面**

❶ズームレバー
(30、54、89、90ページ)
❷シャッター(31ページ)
❸GPSアンテナ
(116ページ)
❹マイク(27、60ページ)
❺前面ランプ
(50、73ページ)
❻レンズ
❼フラッシュ(42ページ)
❽【位置アイコン】(現在位置)ボタン
(122ページ)
❾【地図アイコン】(地図)ボタン
(26、118ページ)
❿【ON/OFF】(電源)
(26ページ)
⓫後面ランプ
(26、31、42ページ)
⓬【●】(ムービー)ボタン
(59ページ)
⓭ストラップ取り付け部
(2ページ)
⓮端子カバー
⓯【USB/AV】端子
(91、140、152、166ページ)
⓰【HDMI OUT】
HDMI output(ミニ)端子
(93ページ)
⓱【カメラアイコン】(撮影)ボタン
(26、28ページ)
⓲【▶】(再生)ボタン
(26、34ページ)
⓳【SET】ボタン(38ページ)
⓴【BS】ボタン(61ページ)
㉑【MENU】ボタン
(69ページ)
㉒コントロールボタン
(【▲】【▼】【◀】【▶】)
(35、38、42、69、
188ページ)
㉓液晶モニター
(12、188ページ)

底面

㉔電池／メモリーカード挿入部(20、23、195、197ページ)

㉕三脚穴

三脚に取り付けるときに使用します。

㉖スピーカー

■ 充電器

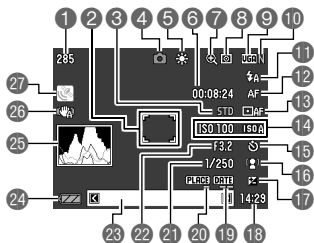
❶ ⊕、Ⓣ、⊖接点

❷【CHARGE】ランプ

❸ACジャック

液晶モニターの表示内容

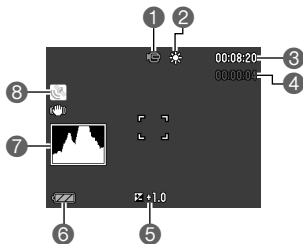
液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

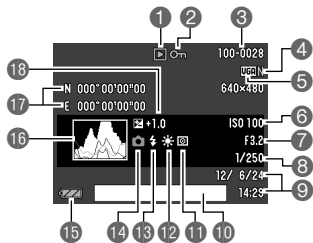
- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

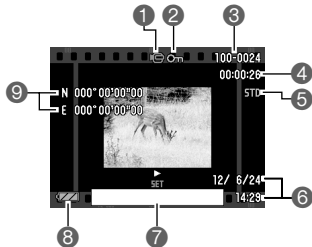
■ 静止画撮影時

❶静止画撮影可能枚数（217ページ）
❷フォーカスフレーム（31、47ページ）
❸動画の画質（78ページ）
❹撮影の種類（28ページ）
❺ホワイトバランス設定（82ページ）
❻動画の残り撮影時間（59ページ）
❼ズーム状態／超解像高画質の表示（56、77ページ）
❽測光方式（83ページ）
❾静止画の画像サイズ（39ページ）
❿静止画の画質（78ページ）
⓫フラッシュ（42ページ）
⓬フォーカス方式（44ページ）
⓭AFエリア（47ページ）
⓮ISO感度（49ページ）
⓯セルフタイマー（50ページ）
⓰顔検出／人物メイクアップ／風景メイクアップ（51、79、80ページ）
⓱露出補正（53ページ）
⓲日付／時刻（54ページ）
⓳タイムスタンプ（180ページ）
⓴地名スタンプ（115ページ）
㉑シャッター速度
㉒絞り値
㉓現在位置の地名表示（113ページ）
㉔電池残量表示（21ページ）
㉕ヒストグラム（188ページ）
㉖手ブレ補正（72ページ）
㉗GPS電波受信状態表示（112ページ）

参考

- 絞り値、シャッター速度、ISO感度は、AE（自動露出）が適正でない場合、シャッターを半押ししたとき、オレンジ色で表示されます。

■ 動画撮影時

❶撮影の種類（59ページ）
❷ホワイトバランス設定（82ページ）
❸動画の残り撮影時間（59ページ）
❹動画の撮影時間（59ページ）
❺露出補正（53ページ）
❻電池残量表示（21ページ）
❼ヒストグラム（188ページ）
❽GPS電波受信状態表示（112ページ）

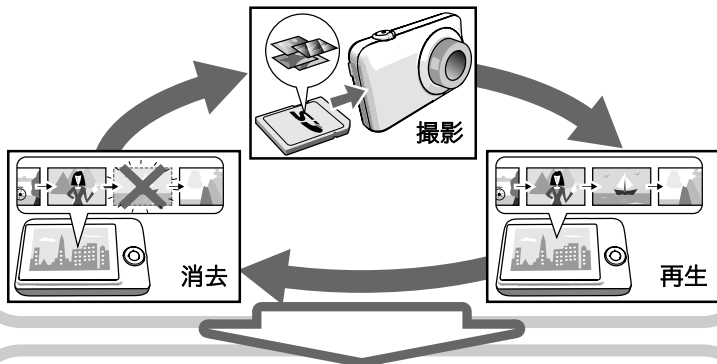
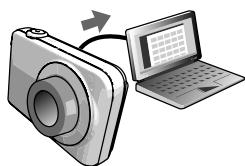
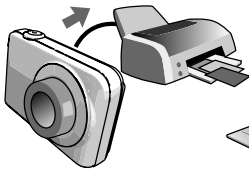
■ 静止画再生時

❶ファイル形態
❷プロテクト表示(104ページ)
❸フォルダ名／ファイル名(172ページ)
❹静止画の画質(78ページ)
❺静止画の画像サイズ(39ページ)
❻ISO感度(49ページ)
❼絞り値
❽シャッター速度
❾日付／時刻(54ページ)
❿撮影地名(113ページ)
⓫測光方式(83ページ)
⓬ホワイトバランス設定(102ページ)
⓭フラッシュ(42ページ)
⓮撮影の種類
⓯電池残量表示(21ページ)
⓰ヒストグラム(188ページ)
⓱緯度・経度(111ページ)
⓲露出補正(53ページ)

■ 動画再生時

❶ファイル形態
❷プロテクト表示(104ページ)
❸フォルダ名/ファイル名(172ページ)
❹動画の撮影時間(86ページ)
❺動画の画質(78ページ)
❻日付/時刻(54ページ)
❼撮影地名(113ページ)
❽電池残量表示(21ページ)
❾緯度・経度(111ページ)

参考

- 地図モードの表示内容については、「Hybrid-GPS(ハイブリッドGPS)機能を使う」(109ページ)をご覧ください。

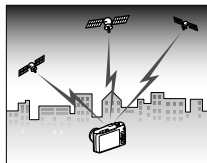
はじめにご覧ください(基本的な操作)

デジタルカメラではこんなことができます

このカメラでできること

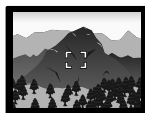
このカメラには、撮影に便利なさまざまな機能が搭載されていますが、ここでは代表的な3つの機能を紹介します。

Hybrid-GPS(ハイブリッドGPS)機能

本機は、GPS機能に加えて、GPS衛星電波の届かない屋内などでも位置情報を取得できるHybrid-GPS(ハイブリッドGPS)機能を搭載しています。この機能を活かし、次のようなことができます。

- 撮影した場所の位置情報(緯度・経度・カメラを向けた方向)を、画像(静止画および動画)に記録することができます。
- 撮影した場所の地名を画像(静止画および動画)に記録したり、画像(静止画)に直接写し込むことができます。
- 撮影した画像と撮影した場所を、地図上に表示することができます。
- 地図を見ながら現在地近くのおすすめ撮影スポットを探し出すことができます。

詳しくはこちら109ページ

プレミアムオート撮影

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、一般的なオート撮影よりも高画質で撮影することができます。

詳しくはこちら28ページ

ベストショット

撮りたいシーンを選んでシャッターを押すことで、最適な設定で写真を簡単に撮影できます。

詳しくはこちら61ページ

箱を開けたら、電池を充電する

お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の「電池を充電する」にしたがって充電してください。

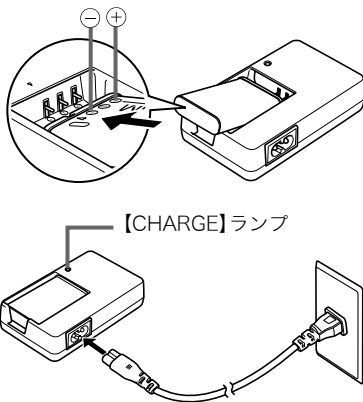
- 本機は、当社の専用リチウムイオン充電池(NP-90)を電源として使用します(NP-90以外の電池は使用できません)。

電池を充電する

1. **電池と充電器の極性(⊕⊖)を合わせ、電池を充電器にセットする**

2. **充電器を家庭用コンセントに接続する**

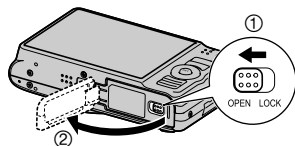
約3時間20分でフル充電されます。充電が完了すると【CHARGE】ランプが消灯します。電源コードをコンセントから抜き、そのあと充電器から電池を取りはずしてください。

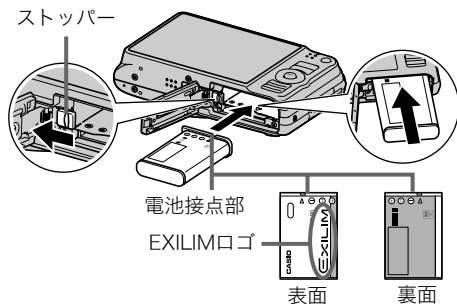
動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／ 充電器の異常／電池の異常 (194ページ)
消灯	充電完了

その他充電についてのご注意

- 充電池(NP-90)は専用充電器(BC-90L)を使って充電してください。他の充電器では充電できません。思わぬ事故につながる可能性があります。
- 使用直後の熱くなった電池は、十分に充電されない場合があります。電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。

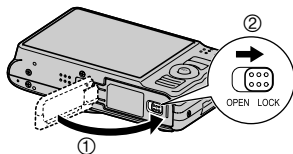
電池を入れる

1. 電池カバーを開ける

電池カバーのスライドスイッチをOPEN側に移動し、矢印の方向に開きます。

2. 電池を入れる

電池のEXILIMのロゴのある面を下(レンズ側)にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。

3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉め、スライドスイッチをLOCK側に移動します。

- 電池の交換のしかたについては、195ページを参照してください。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い ←――――――――→ 少ない						
電池残量表示	[電池アイコン]	→	[電池アイコン]	→	[電池アイコン]	→	[電池アイコン]
残量表示の色	水色	→	オレンジ色	→	赤色	→	赤色

“[電池アイコン]”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“[電池アイコン]”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

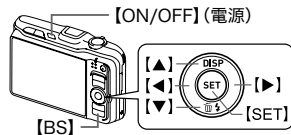
- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約30日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください(181ページ)。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては、221ページをご覧ください。

電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しなくてよいときは、フラッシュの発光方法を“[アイコン]”(発光禁止)にしてください(42ページ)。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます(183、183ページ)。
- “コンティニュアスAF”を“切”にする(71ページ)。
- GPS機能を使用しないときは、“GPS”を“切”に設定してください(110ページ)。

最初に電源を入れたら時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは

時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる

---

2. 日付と時刻を合わせる

【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。

12時間／24時間表示を切り替えるには、【BS】を押します。

---

3. 日付／時刻合わせが終了したら、【◀】【▶】を押して“決定”を選び、【SET】を押す

---

4. 【▲】【▼】を押して、“オート”または“プレミアムオート”のどちらかのオート撮影モード(28ページ)を選び、【SET】を押す

- オート撮影モードは、設定が終了したあとから【BS】を押して、“オート”または“プレミアムオート”のシーンを選ぶことにより、切り替えることができます(28ページ)。

> 日付／時刻を間違って設定した場合、上記の手順では直せません。181ページをご覧になり、設定し直してください。

参考

- 時計を設定しても、すぐに電池を抜くと、設定した時刻がリセットされる場合があります。時計を設定後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください（本機にメモリーカードは付属していません）。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画が撮影できます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

• 保存できる枚数については217ページをご覧ください。

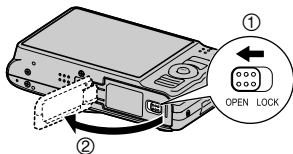
使用できるメモリーカード

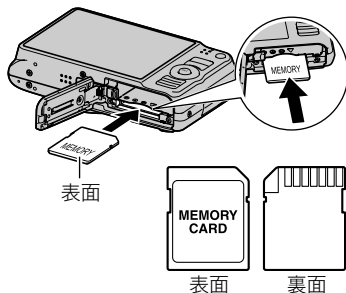
– SDメモリーカード
– SDHCメモリーカード
– SDXCメモリーカード

当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://casio.jp/dc/）をご覧いただくか、本書巻末記載の「お客様相談窓口（229ページ）」にお問い合わせください。

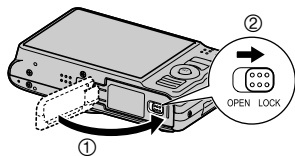
メモリーカードを入れる

1. 【ON/OFF】（電源）を押して電源を切り、電池カバーを開ける

電池カバーのスライドスイッチをOPEN側に移動し、矢印の方向に開きます。

2. メモリーカードを入れる

メモリーカードの表面を上(液晶モニター側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。

3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉め、スライドスイッチをLOCK側に移動します。

- メモリーカードの交換のしかたについては、197ページを参照してください。

重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(23ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、「修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)」またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

新しいメモリーカードを初めて使用するときは、カメラでフォーマットする必要があります。

1. 電源を入れて【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内に書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコン上にコピーしてからフォーマットしてください。

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

【ON/OFF】(電源)

【⊕】(地図)

後面ランプ

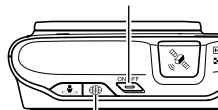
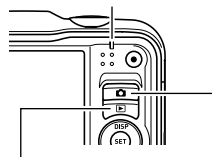
【▶】(再生)　【📷】(撮影)

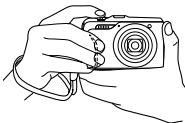
撮影モードで電源を入れる	【ON/OFF】(電源)または【📷】(撮影)を押す • 後面ランプが緑色に一時点灯し、レンズが出てきます(28ページ)。
再生モードで電源を入れる	【▶】(再生)を押す • 後面ランプが緑色に一時点灯し、撮影した画像が再生されます(34ページ)。
地図モードで電源を入れる	【⊕】(地図)を押す • 後面ランプが緑色に一時点灯し、地図と画像が表示されます(118ページ)。

• レンズを押さえたりぶつけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。
• 撮影モードのときに【▶】(再生)を押すと再生モードに切り替わり、約10秒後にレンズが収納されます。
• スリープ機能、オートパワーオフ機能(183、183ページ)により、一定時間操作しないと、自動的に液晶モニターが消灯したり電源が切れたりします。

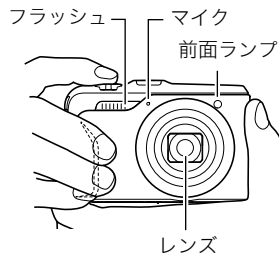
■ 電源を切る

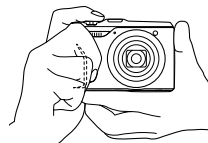
【ON/OFF】(電源)を押します。

• 【📷】(撮影)、【▶】(再生)、または【⊕】(地図)を押しても電源が入らないようにすることができます。また、【📷】(撮影)や【▶】(再生)を押して電源が切れるようにすることもできます(184ページ)。

カメラの正しい構えかた

シャッターを押すときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。
正しく構えてください。右の図のように持ち、脇をしっかり締めてください。
シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

参考

- カメラは左手でしっかり持ち、右手はグリップの突起に指を掛けるように構えてください。
- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。

重要

- フラッシュに指がかかったり、近づきすぎないでください。フラッシュ撮影時、影が写りこんだりする原因になります。

静止画を撮影する

オート撮影モードを設定する

本機には2つのオート撮影モードがあり、目的に応じて切り替えることができます。

オート	一般的なオート撮影モードです。 • プレミアムオートよりも、スピーディーに撮影ができます。
プレミアムオート	被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します。 • オートよりも、撮影直後の画像処理に時間がかかります。 • オートよりも、電池寿命はやや短くなります。

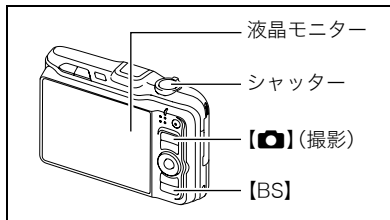
1. 【 】(撮影)を押して電源を入れる

撮影モードになり、カメラが撮影できる状態になります。

2. 【BS】を押す

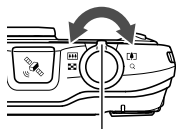
ベストショットのシーン一覧が表示されます(61ページ)。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“オート”または“プレミアムオート”のシーンを選び、【SET】を押す

オート撮影モードが設定されます。

撮影する

1. カメラを被写体に向ける

プレミアムオートで撮影しようとすると、カメラが検出した撮影環境が画面右下に表示されます。

- ズームの倍率を変更できます。

カメラが三脚に乗って静止していることを検出すると表示されます

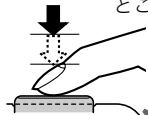
ズームレバー

[♣♣♣]広角

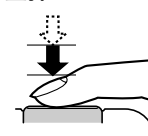
[♣]望遠

- “GPS”(110ページ)を“入”に設定した場合は、ハイブリッドGPS機能により測位した緯度・経度をもとにして、画像に記録する現在位置の地名候補が画面に表示されます。この状態から撮影した場所の地名を、画像に記録することができます。
  詳しくは「撮影した場所の地名を画像に記録する(地名入力)」(113ページ)をご覧ください。

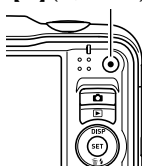
2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

ピントが合うと“ピピッ”と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。

シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

- 本書ではフォーカスフレームは【 】で説明していますが、フォーカスフレームの形は切り替えることができます(74ページ)。

3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

動画を撮影するには

【●】(ムービー)を押すと動画の撮影が開始されます。もう一度【●】(ムービー)を押すと終了します。詳しくは59ページをご覧ください。

■ ピントが合っていないとき

フォーカスフレームが赤のままで、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度カメラを被写体に向け直して、ピントを合わせてみてください。

■ オートで撮影するとき

被写体が中央にない場合は

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したい場合は、フォーカスロック(46ページ)を使います。

動く被写体を追いかけてピントを合わせるには

シャッターを半押しすることで、動く被写体を追いかけてピントを合わせることができます("[ ]AF トラッキング"(47ページ))。

■ プレミアムオートで撮影するとき

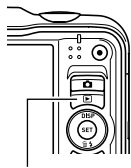
- シャッター速度、絞り値、ISO感度などに加えて、カメラが次の機能なども自動的に作動させて撮影します。
  - シャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。
  - インテリジェントAF(47ページ)
  - 顔検出(51ページ)
  - 人物メイクアップ／風景メイクアップ(79、80ページ)
- プレミアムオートで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- プレミアムオートで撮影すると、"プレミアムオート高画質化の処理中です　しばらくお待ちください"と表示される場合があります。もしも画像処理時間が気になる場合は、オートに切り替えて撮影することをおすすめします。
- プレミアムオートでは、撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、オートに切り替えて撮影してください。

撮影した静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については86ページをご覧ください。

1. 【▶】(再生)を押して、再生モードにする

- 記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(14ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(188ページ)。
- ズームレバーを【[♠]】側にスライドさせると画像を拡大して表示します(89ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。

【▶】(再生)

2. 【◀】【▶】で前後の静止画に切り替える

- 押し続けると、早送りができます。

参考

- 再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを半押しすると、すぐに撮影モードに切り替わります。

撮影した静止画や動画を消去する

メモリーがいっぱいになっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。
- "🗑禁止"（185ページ）を"入"に設定すると、【▼】（🗑⚡）（消去）を押しても、消去メニューは表示されません。画像を消去したいときは、"🗑禁止"を"切"にしてください。

1ファイルずつ消去する

1. 【▶】（再生）を押して再生モードにしたあと、【▼】（🗑⚡）を押す

全ファイル消去
選択ファイル消去
消去
キャンセル

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

3. 【▲】【▼】で"消去"を選び、【SET】を押す

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順2～3を繰り返します。
- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

選択したファイルを消去する

1. 【▶】（再生）を押して再生モードにしたあと、【▼】（🗑⚡）を押す

2. 【▲】【▼】で"選択ファイル消去"を選び、【SET】を押す

- 消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で消去したいファイルに赤枠を移動し、【SET】を押す

- 選択したファイルの□にチェックが入ります。

4. 手順3を繰り返して、消去したいファイルをすべて選択したら、【BS】を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

すべてのファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑 ⚡)を押す

2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 後面ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質(77ページ)で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

オートフォーカスの制限事項

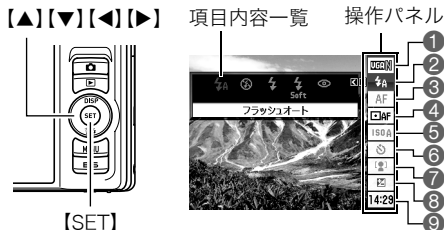
- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
  - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
  - 手ブレをしているとき
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(46ページ)やマニュアルフォーカス(44ページ)で撮影してみてください。

静止画を撮影する（応用）

操作パネルを使う

本機では、操作パネルを使って、撮影に関しての設定を変更することができます。

1. **撮影モードにして、【SET】を押す**

操作パネルのアイコン部分の設定が可能になります。

2. **【▲】【▼】で設定したい項目を選ぶ**

①画像サイズ／画質※（39、78ページ）
②フラッシュ（42ページ）
③フォーカス方式（44ページ）
④AFエリア（47ページ）
⑤ISO感度（49ページ）
⑥セルフタイマー（50ページ）
⑦顔検出／人物メイクアップ／風景メイクアップ（51、79、80ページ）
⑧EVシフト（53ページ）
⑨日付／時刻の表示（54ページ）

※操作パネル上では静止画の画質の切り替えはできません。

3. **【◀】【▶】で設定したい内容を選ぶ**

4. **【SET】を押して決定する**

選んだ内容に決定され、撮影モードの画面に戻ります。

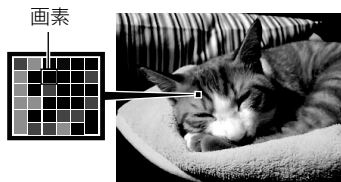
- 続けて他の項目を選ぶときは、【SET】を押さずに【▲】【▼】で他の項目に切り替えます。

参考

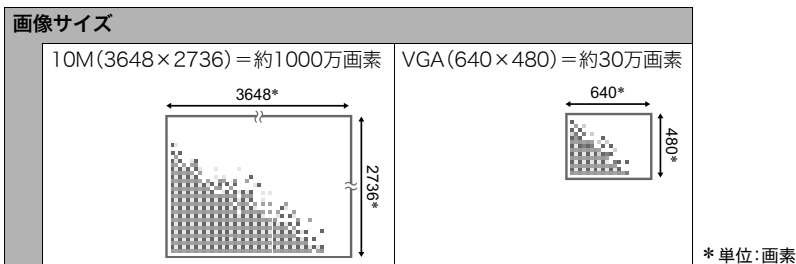
- 前記以外に、撮影に関してさまざまな内容の設定を変更することができます(69ページ)。
- ベストショット撮影の一部では、操作パネルが表示されません。

画像サイズを変更する(画像サイズ)

■ 画素について

デジタルカメラの画像は、小さな点(画素・pixels)の集まりでできています。
画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ(L版)へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。

■ 画像サイズについて

その画像がいくつの画素でできているかを示すもので、横×縦の画素数で表します。

＊単位：画素

サイズを決める目安

画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

画素数が多い画像	精細だがデータ量が多くなる （A3用紙などに大きく印刷する場合などに適している）
画素数が少ない画像	粗いがデータ量は少ない （Eメールで画像を送る場合などに適している）

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→217ページ
- 動画の画像サイズについて→78ページ
- 撮影済み静止画の画像サイズを小さくする（リサイズ）→106ページ

■ 画像サイズを設定する

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの一番上の項目(画像サイズ)を選ぶ

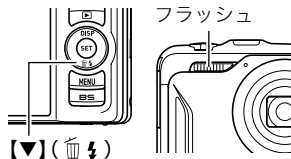
3. 【◀】【▶】で画像サイズを選び、【SET】を押す

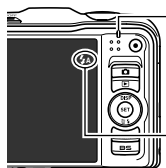
画素数(pixels)	プリント時の用紙サイズの目安や用途	特徴
14M(4320×3240)	ポスタープリント	精細な画像が得られ、トリミング(107ページ)しても画像が粗くなりにくいです。
3:2(4320×2880)	ポスタープリント	
16:9(4320×2432)	HDTVサイズ	
10M(3648×2736)	ポスタープリント	精細な画像が得られます。
6M(2816×2112)	A3プリント	
3M(2048×1536)	L判プリント	画質より、撮影枚数を優先したいときに有効です。
VGA(640×480)	Eメール	データ量が少ないので、Eメールに添付するのに有効です。ただし、画像は粗くなります。

- お買い上げいただいたときは、"14M"で撮影するように設定されています。
- "3:2"を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面(4:3)より横長(ワイド画面)になります。本機はこのHDTVの画面(ワイド画面)の横縦比に合わせて撮影することができます。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。

フラッシュを使う(フラッシュ)

1. 撮影モードで【▼】(🗑 ⚡)を1回押す

2. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す

⚡Aフラッシュオート	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。
発光禁止	常に発光しません。
⚡強制発光	常に発光します。日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
ソフト発光	露出に関係なく光量を抑えて発光します。
赤目軽減	自動的に発光します。人の目が赤く写る現象を軽減できます。

3. シャッターを押して撮影する

後面ランプ
フラッシュ充電中はオレンジ色に点滅します。
- 充電が完了してオレンジ色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

フラッシュ発光時は“⚡”を表示

- フラッシュが届く範囲については、220ページをご覧ください。

参考

- フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。
- 被写体までの距離が遠すぎたり近すぎたりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間(220ページ)は、使用条件(電池の状態や周囲の温度など)により異なります。
- 暗い場所でフラッシュを“⊛”(発光禁止)にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。この場合、カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。
- フラッシュ撮影が禁止されている場所では指示に従い、フラッシュを“⊛”(発光禁止)に設定してください。

赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)をすることにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

便利な機能

- フラッシュの強さを変える→85ページ

ピントの合わせ方を変える（フォーカス方式）

ピントの合わせ方を選ぶことができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

---

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目（フォーカス方式）を選ぶ

---

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
		静止画	動画	静止画	動画
AF オートフォーカス	一般的な撮影	自動	固定焦点	約15cm～∞（無限遠）（W端）	距離固定※2
マクロ	近くのものを撮影	自動		約7cm～約50cm（W端から、1段ズーム時）	
スーパーマクロ	近くのものを大きく撮影	自動		約7cm～約50cm	
∞ 無限遠	景色などの遠景の撮影	固定		無限遠	
MF マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせたい場合	手動		約15cm～∞（無限遠）（W端）※2	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。
※2 最短距離は光学ズームの位置で変わります。

スーパーマクロについて

被写体にもっとも近寄って撮影できる状態に光学ズームを固定することにより、被写体をより近くで、より大きく撮影することができます。

参考

- スーパーマクロに設定するとズーム状態は固定され、ズームレバーをスライドさせてもズームは作動しなくなります。

マニュアルフォーカス時のピント合わせ方法

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】(近く)【▶】(遠く)でピントを合わせる

- このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。

ピント合わせの黄色枠

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。

- オートフォーカス／マクロ／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例：○○cm - ∞
  ※○○には数字が入ります。
- マニュアルフォーカス撮影時は、現在位置の地名候補が表示されないため、画像に記録する地名を選ぶことができません（113ページ）。マニュアルフォーカス撮影で画像に正しい地名を記録したい場合は、撮影したい場所に移動し、マニュアルフォーカス以外のフォーカス方式で地名候補の中から正しい地名を選んだあと、フォーカス方式をマニュアルフォーカスに設定し直し、場所を移動しないで撮影してください。

フォーカスロックについて

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

- AFエリアは、"AFスポット"にしておきます（47ページ）。

ピントを合わせたい被写体

フォーカスフレーム

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

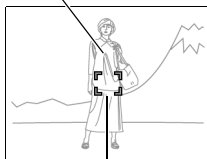
---

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす

---

3. シャッターを最後まで押し込む

参考

- フォーカスロックと同時に露出（AE）もロックされます。

オートフォーカスの測定範囲を変更する（AFエリア）

インテリジェント	画面の中でピントを合わせるべき場所をカメラが自動的に判断し、そこへピントを合わせます（自動認識AF）。 • 顔検出（51ページ）も自動的に動作します。
スポット	中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック（46ページ）を活用した撮影に便利です。
マルチ	シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。
トラッキング	シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から4番目の項目（AFエリア）を選ぶ

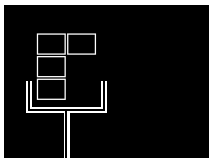
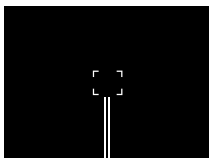
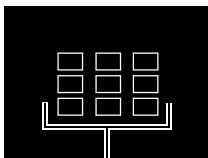
3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

4. 被写体にカメラを向けてシャッターを半押しし、露出やピントを合わせる

5. シャッターを全押しする

“インテリジェント”の場合

“マルチ”の場合

重要

- “トラッキング”で追尾しているときはレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。

ISO感度を変える(ISO感度)

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から5番目の項目(ISO感度)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

AUTO(オート)	撮影条件により自動調整します。		
ISO 80	感度が低い	シャッター速度が遅い	なめらかに撮れる(ノイズが減る)
ISO 100	↑	↑	↑
ISO 200			
ISO 400			
ISO 800	↓	↓	↓
ISO 1600		シャッター速度が速い(暗い場所での撮影向き)	多少ざらつく(ノイズが増える)
ISO 3200	感度が高い		

- 動画撮影ではISO感度をどこに設定しても、常に“AUTO”で撮影されます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズが多少増えます。

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から6番目の項目(セルフタイマー)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

10秒セルフタイマー	10秒後に撮影されます。
2秒セルフタイマー	2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
x3セルフタイマー (トリプルセルフタイマー)	10秒後に1枚、その後撮影準備完了ごとに2枚の合計3枚撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
セルフタイマー切	セルフタイマー撮影は行いません。

- 設定した時間をカウントしている最中は前面ランプが点滅します。
- カウントダウン中に【SET】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

参考

- トリプルセルフタイマーが使用できない撮影機能
  動画撮影、人物メイクアップ、風景メイクアップ、ベストショット撮影の一部

人の顔にピントと明るさを合わせて撮影する(顔検出)

人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの下から3番目の項目(顔検出)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で"[icon]顔検出:入"を選び、【SET】を押す

4. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出すると、顔にフレームが表示されます。

5. シャッターを半押しする

ピントと明るさが合った顔に、緑色のフレームが表示されます。

6. シャッターを全押しして撮影する

重要

- 顔が検出できない場合は、中央にピントを合わせます。
- 顔検出撮影では、フォーカス方式はオートフォーカス(AF)に固定されます。
- カメラを縦に持って撮影した場合、顔を検出するまでにやや時間がかかります。
- 次のような場合、顔が検出できません。
  - 顔の一部が頭髪、サングラス、帽子などでさえぎられている人物。または顔に濃い影が落ちている人物
  - 顔が横を向いていたり斜めに傾いていたりする人物
  - 距離が遠すぎて、顔が小さすぎる人物。または距離が近すぎて、顔が大きすぎる人物
  - 極端に暗い場所での人物
  - ペットなど人物以外の被写体
- 下記の撮影では、顔検出撮影はできません。
  - ベストショット撮影の一部
  - 動画撮影
- 顔検出撮影時は、AFエリア(47ページ)の設定は無効になります。

明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。

- 露出補正値:−2.0EV〜+2.0EV
- 補正単位:1/3EV

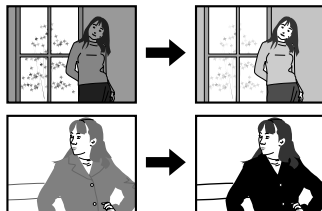
1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの下から2番目の項目(EVシフト)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で露出補正値を選ぶ

【▶】: +方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

【◀】: −方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。

露出補正値

露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正値で撮影できます。ただし、電源を切ると、設定は“0.0”に戻ります。

参考

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

操作パネル上の日付／時刻の表示を変える

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの一番下の項目（日付／時刻の表示）を選ぶ

【◀】【▶】で日付または時刻の表示が選べます。

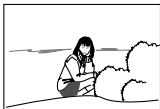
参考

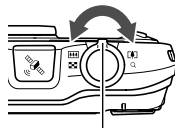
- 日付は"表示スタイル"（181ページ）の設定により、「月／日」と「日／月」の2つから選ぶことができます。
- 時刻は、24時間制で表示されます。

ズーム撮影する

本機のズームには光学ズーム、HDズーム、超解像ズーム、デジタルズームがあります。最大倍率は画像サイズ、デジタルズーム入/切の設定によって異なります。

光学ズーム	レンズの焦点距離を変える方式
HDズーム	切り出した画像を拡大することなくズームアップ効果を得る方式
超解像ズーム	超解像技術により画質の劣化を抑える方式
デジタルズーム	画像中央をデジタル処理で拡大する方式

1. 撮影モードにして、ズームレバーをスライドさせる

広角

望遠

ズームレバー

【】（広角）：被写体が小さくなり、写る範囲が広くなります。
【】（望遠）：被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

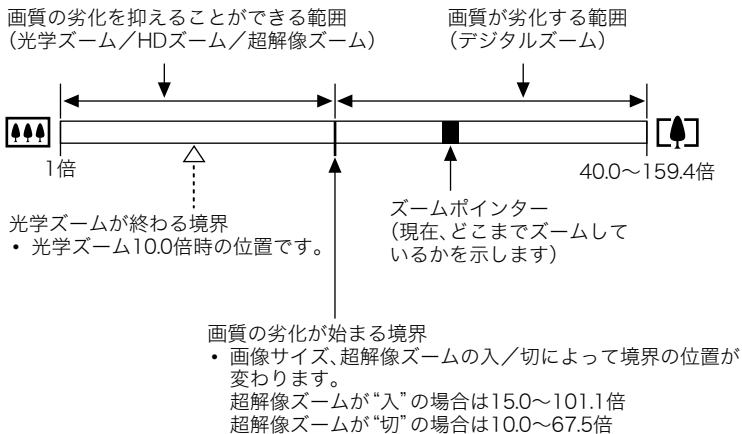
---

2. シャッターを押して撮影する

参考

- 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため三脚の使用をおすすめします。
- 光学ズームを働かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 動画撮影中はデジタルズームのみ使用できます。【●】（ムービー）を押す前であれば、光学ズームも使用できます。

ズームバーの見かた

ズーム中は、ズームバーでおおよその倍率が確認できます。

■ ズーム時のアイコンの変化について

ズーム倍率によって画面上に表示されるアイコンが変化します。

光学ズーム	表示されない
HDズーム	表示されない
超解像ズーム	SR
デジタルズーム	⊕

■ ズーム倍率について

デジタルズームの倍率は画像サイズ(39ページ)、超解像ズームの入/切によって異なります。

画像サイズ	画質の劣化を抑えることができる最大倍率		総合最大倍率
	超解像ズーム:切	超解像ズーム:入	
14M	10.0倍	15.0倍	40.0倍
3:2	10.0倍	15.0倍	40.0倍
16:9	10.0倍	15.0倍	40.0倍
10M	11.8倍	17.8倍	47.4倍
6M	15.3倍	23.0倍	61.3倍
3M	21.1倍	31.6倍	84.3倍
VGA	67.5倍	101.1倍	159.4倍

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる（超解像ズーム）

超解像技術により、画質の劣化を最小限に抑えることができるズームの範囲を広げることができます。超解像ズームが有効な倍率の範囲については57ページをご覧ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で“超解像ズーム”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

参考

- 動画撮影時は機能しません。
- 超解像ズームでは、下記の機能は使用できません。
  トリプルセルフタイマー、人物メイクアップ、ベストショット撮影の一部

動画を撮影する

動画を撮影する

1. **撮影前に動画の画質を設定する(78ページ)**

画質ごとに撮影できる時間が異なります。

2. **撮影モードにし、カメラを被写体へ向けてから【●】(ムービー)を押す**

撮影が開始され、液晶モニターに“●REC”が表示されます。

撮影中は音声(モノラル)も録音されます。

- 【●】(ムービー)を押した直後、画面中央の被写体に対して一度だけピント合わせを行います。動画撮影中はフォーカス位置を固定して撮影されます。

【●】(ムービー)

撮影可能な残り時間(218ページ)

撮影時間

3. **もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する**

- 撮影可能な動画は、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。

ベストショットを利用した動画撮影

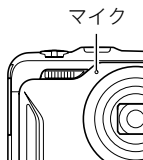
ベストショット(61ページ)を利用して、カメラが提案するシーンを選ぶだけできれいな動画を撮影できます。たとえば、ベストショットの“夜景を写します”を選んでから動画を撮影すると、夜景を明るく撮影できます。

動画撮影時の手ブレ軽減

手ブレを軽減しながら動画撮影することができます(72ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。また、画角が狭くなります。

参考

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  - 指などでマイクをふさがないでください。
  - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
  - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。

- 極端に明るい被写体を撮影しようとすると、液晶モニターの画像に、縦に尾を引いたような光の帯や画面にピンク色が表示される場合(スミア現象)がありますが、故障ではありません。
- 内蔵メモリー使用時やメモリーカードの種類によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、“ ”と“●REC”が点滅します。このような場合、最大転送速度が10MB/秒以上のメモリーカードの使用をおすすめします(198ページ)。
- 動画撮影中は、デジタルズームのみ動作します。光学ズームは動作しませんので、光学ズームを使いたいときは、【●】(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにすると、画像のブレが目立つ場合があります。ブレを防止するためには、三脚を使用することをおすすめします。
- 動画撮影中のオートフォーカス/マクロは固定焦点となります(44ページ)。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

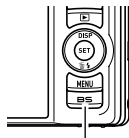
さまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されています。望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。

■ 撮影シーンの例

人物を写します	風景を写します	夜景を写します	夜景と人物を写します

ベストショットで撮影する

1. 撮影モードにして【BS】を押す

ベストショットのシーン一覧が表示されます。

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- 【▲】【▼】を押していくと、別のシーン一覧が表示されます。
- 選んだシーンの詳しい内容を確認できます(63ページ)。
- 通常の静止画撮影に戻るには、シーン番号1の"[カメラ]"(オート)を選んでください。シーン一覧またはシーンの説明画面が表示されている状態で【MENU】を押すと、枠が"[カメラ]"(オート)へジャンプします。

現在のシーン(枠部分)

BS BEST SHOT

人物を写します 4

シーン名　シーン番号

3. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

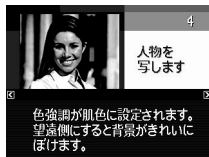
4. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】(ムービー)を押す

参考

- 本機にはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画が撮影できる"YouTube"のシーンを収録しています。このシーンで撮影した動画は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(173ページ)。

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】
  再度、【BS】を押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。

■ ベストショット撮影時の注意

- ベストショット撮影の一部は、動画撮影には使えません。
- “YouTube”は静止画撮影には使えません。
- “夜景を写します”、“花火を写します”などの一部のシーンではシャッター速度が遅くなります。このシーンでは画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理をしています。後面ランプが緑色に点滅している間はキー操作をしないでください。また、手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。

自分好みの設定を登録する（カスタム登録）

設定内容をベストショットに登録（最大999件）して、同じ設定で撮影することができます。

1. ベストショットのシーンで“BEST SHOT”（新規登録）のシーンを選ぶ

2. 【◀】【▶】で登録したい静止画または動画を選ぶ

3. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す

登録したシーンには、“マイベストショット”という名前が付きます。

参考

- 静止画・動画、それぞれ専用のシーンとして登録されます。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順に、静止画の場合はSU1、SU2・・・、動画の場合はMU1、MU2・・・となります。
- 静止画で登録される設定内容
  顔検出、フォーカス方式、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュ、ISO感度、測光方式、ライティング、人物メイクアップ、風景メイクアップ、フラッシュ光量、カラーフィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- 動画で登録される設定内容
  フォーカス方式、EVシフト、ホワイトバランス、カラーフィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」（静止画用）または「MSCENE」（動画用）フォルダに保存されます（173ページ）。
- 内蔵メモリーをフォーマット（187ページ）すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。

- 登録したシーンを削除する場合は下記の手順で削除してください。
  ①シーンの説明画面(63ページ)から削除したいシーンを表示させる
  ②【▼】(🗑 ⚡)を押したあと“解除”を選び、【SET】を押す
- プレミアムオートで撮影した画像は、カスタム登録することはできません。

パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ)

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、画面上で合成することで、レンズの広角度を超えた最大360度のパノラマ画像を作成することができます。

- 合成した画像は、下記のサイズで保存されます。
  スライド方向が右／左方向の場合：5.5M(7680×720 pixels)
  スライド方向が上／下方向の場合：5.5M(1280×4320 pixels)
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- パノラマ画像は最大で、横方向で約360度、縦方向で約180度の角度で撮影できます。
- 横方向の撮影角度が360度に満たなかった場合は、撮影できた領域によって60度、120度、180度、240度、300度のいずれかのパノラマ画像になります。

1. 【BS】を押して“スライドパノラマ”のシーンを選ぶ

2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの一番上の項目(スライド方向)を選ぶ

3. 【◀】【▶】でスライド方向(カメラを動かす方向)を選び、【SET】を押す

スライド方向は、右／左／上／下の４種類があります。

4. 被写体の端にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

5. **シャッターを全押しし、画面上に表示されるスライドカーソルが画面の端(スライド方向が右の場合は右端)に着くまで、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす**

スライドカーソル

- スライドカーソルが画面の端に着くまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。カメラを動かすのを止めたあと、"処理中ですしばらくお待ちください"とメッセージが表示されてから、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- 以下の場合は、スライドパノラマ撮影に適していません。
  – 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
  – 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
  – 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
  – 主な被写体とカメラとの距離が近い
  – 動いている被写体
- 以下の場合、スライドパノラマ撮影が中断されることがあります。
  – 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
  – カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源(蛍光灯など)がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。

- 周囲が暗い状況で撮影した場合、画像がブレたり、撮影ができなかったりすることがあります。
- カメラは画面上の矢印の方向に同じ速度でゆっくり動かしてください。
- カメラは画面に表示される矢印に対して、できる限り平行に動かしてください。
- スライドパノラマ撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- 連写撮影がうまくいかなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。
- 動いている被写体を撮影したとき、うまく画像を合成できない場合があります。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に"⊛"(発光禁止)になります。

カメラにまかせて自分の顔を撮影する(自分撮り)

カメラを自分に向けるだけで、自動的に撮影することができます。
ベストショットに2つの自分撮りのシーンが用意されています。

- 自分撮り(1人):自分を含めて1人以上の顔を見つけると、自動的に撮影します。
- 自分撮り(2人):自分を含めて2人以上の顔を見つけると、自動的に撮影します。

1. 【BS】を押して"自分撮り(1人)""自分撮り(2人)"のシーンを選ぶ

---

2. シャッターを全押しし、カメラを自分を含めた被写体に向ける

シャッターを押してから約3秒後に撮影待機状態となり、カメラが人物の顔を検出します。
人物の顔が規定の人数以上になると、カメラがブレていない瞬間を検出し、自動的に撮影します。

- 撮影した際、シャッター音が鳴り、前面ランプが2回点滅します。
- 自分撮り撮影を解除するには【SET】を押してください。

重要

- 撮影待機状態が続き、なかなか自動的に撮影されない場合は、再度シャッターを押し込むことで、強制的に撮影することもできます。
- 極端にシャッター速度が遅くなるような暗い場所で撮影した場合、十分な効果が得られずにブレてしまう場合があります。
- 撮影待機状態のとき、オートパワーオフ機能(183ページ)は5分に固定されます。また、スリープ機能(183ページ)は作動しません。

よりよい撮影のための設定

本機では、メニューを操作していろいろな設定ができます。

- メニュー画面で操作できる機能の一部は操作パネル(38ページ)からも設定できます。両方で設定できる機能については操作パネルからの操作方法を別途記載していますので、該当するページをご覧ください。

メニュー操作を覚える

■ メニュー画面の操作例

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

メニュー画面が表示されます。

- メニューの内容は、撮影モードと再生モードで異なります。

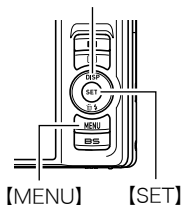
2. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押す

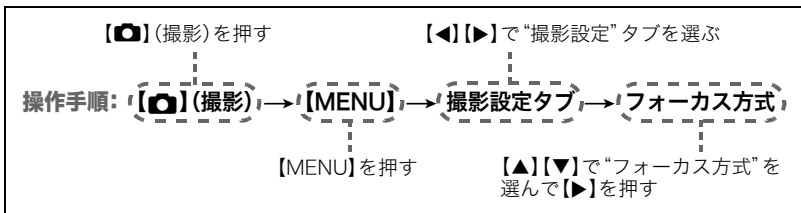
4. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

5. 【SET】を押して決定する

- 【SET】の代わりに【◀】を押すと、選んだ内容に決定され、メニュー画面に戻ります。
- 他のタブを選ぶときは、【◀】を押したあと【▲】でタブの位置に戻り、【◀】【▶】で切り替えます。
- 【MENU】を押すと、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

重要

- オート撮影モード(28ページ)をプレミアムオートに設定すると、一部のメニューは使用できなくなります。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。前記の「メニュー画面の操作例」(69ページ)の操作手順を例とすると次のような表記になります。

撮影設定について(撮影設定)

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→フォーカス方式

詳しくは操作パネルからの操作方法(44ページ)をご覧ください。

セルフタイマーを使う（セルフタイマー）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→セルフタイマー

詳しくは操作パネルからの操作方法（50ページ）をご覧ください。

人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する（顔検出）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→顔検出

詳しくは操作パネルからの操作方法（51ページ）をご覧ください。

常にオートフォーカスを動作させる（コンティニュアスAF）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→コンティニュアスAF

"入"にすると、静止画撮影時はシャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。

- シャッターを半押しする前は画面の中央にピントを合わせ続けます。シャッターの半押し中は、"顔検出"が"入"の場合は顔検出したエリアにピントを合わせます。
- コンティニュアスAFで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。

手ブレや被写体ブレを軽減する(手ブレ補正)

操作手順:【[カメラ]】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→手ブレ補正

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。手ブレ補正の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。本機には、「CCDシフト方式手ブレ補正機能」と、「高感度被写体ブレ軽減機能」が搭載されています。このふたつを最適に組み合わせて手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

オート	手ブレ、被写体ブレを軽減します。
手ブレDEMO	シャッターを半押ししている間、画面上で手ブレ補正の効果を確認することができます。ただし、実際に撮影することはできません。
切	ブレ軽減は行いません。

参考

- 動画撮影時は手ブレ補正だけが動作します。
- “オート”に設定時は、シャッターを半押ししても、画面上にISO感度、絞り、シャッター速度が表示されません(撮影直後の画像確認画面に表示されます)。
- “オート”で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 三脚使用時は、手ブレ補正が正常に動作しません。“手ブレ補正”の設定を“切”に設定してください。

オートフォーカスの測定範囲を変更する(AFエリア)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→AFエリア

詳しくは操作パネルからの操作方法(47ページ)をご覧ください。

ピント合わせを補助するライト(AF補助光)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→AF補助光

暗い場所での撮影のときなど、ピント合わせをしやすくするために、シャッター半押し時に必要に応じて前面ランプがAF補助光として発光します。至近距離で人物撮影をするときなどは"切"に設定することをおすすめします。

重要

- 前面ランプをのぞいたり、人の目に当てないでください。

フォーカスフレームの形を切り替える（フォーカス枠）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→フォーカス枠

フォーカスフレームの形をハートの形など5つの中から切り替えることができます。

設定できる内容	[ ]				
		ランダム			

参考

- シャッター半押し時、フォーカスフレームの形は次のように切り替わります。

ピントが合っているとき				
ピントが合っていないとき				

- "ランダム"に設定すると、電源を入れるごとに、4つのフォーカスフレームの中からランダムにフレームを切り替えて表示します。
- 顔検出撮影では、フレームの形は"[ ]"となります。

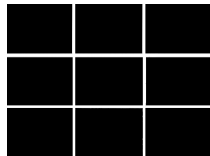
デジタルズームを設定する（デジタルズーム）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→デジタルズーム

デジタルズームを使わないようにすることができます。デジタルズームを使用したくないときは"切"に設定してください。

撮影時、液晶モニターに基準線を表示する（グリッド表示）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→グリッド表示

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つ目安線になります。"入"にするとグリッドを表示します。

撮影直後の画像を表示する（撮影レビュー）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→撮影レビュー

"入"にすると、撮影直後の画像が約1秒間表示されます。

画面上のアイコンの意味を確認する（アイコンガイド）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→アイコンガイド

"入"にすると、オート撮影モードを切り替えるときに、アイコンの意味が表示されます。

アイコンの意味を確認できる機能

- オート撮影モード

各種設定を記憶させる（モードメモリ）

操作手順：【】（撮影）→【MENU】→撮影設定タブ→モードメモリ

“入”にすると電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。“切”にすると電源を切ったときに初期設定に戻ります。

<table>
<tr><th>機能</th><th>切（初期設定）</th><th>入</th></tr>
<tr><td>BSベストショット</td><td>静止画（オート）</td><td rowspan="15">最後の状態</td></tr>
<tr><td>メイクアップ</td><td>切</td></tr>
<tr><td>フラッシュ</td><td>オート</td></tr>
<tr><td>フォーカス方式</td><td>AF（オートフォーカス）</td></tr>
<tr><td>ホワイトバランス</td><td>オート</td></tr>
<tr><td>ISO感度</td><td>オート</td></tr>
<tr><td>AFエリア</td><td>スポット</td></tr>
<tr><td>測光方式</td><td>マルチ</td></tr>
<tr><td>セルフタイマー</td><td>切</td></tr>
<tr><td>フラッシュ光量</td><td>0</td></tr>
<tr><td>超解像高画質</td><td>切</td></tr>
<tr><td>超解像ズーム</td><td>入</td></tr>
<tr><td>デジタルズーム</td><td>入</td></tr>
<tr><td>MF位置</td><td>MF（マニュアルフォーカス）に切り替える前の位置</td></tr>
<tr><td>ズーム位置※</td><td>ワイド端</td></tr>
</table>

※ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

- モードメモリの“BSベストショット”の設定を“入”の状態で電源をオン／オフすると、“BSベストショット”以外のモードメモリの設定が、入／切のどちらに設定されていても、撮影設定はベストショットの各シーンの初期設定値となります。ただし、“ズーム位置”だけは記録されています。

画質設定について（画質設定）

質感と解像感を高めた静止画を撮影する（超解像高画質）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→超解像高画質

超解像技術の応用により、画像を輪郭部分、細かい模様部分、平坦な部分の３つに分類し、それぞれに最適な処理を行うことで、質感と解像感を高めた静止画を撮影することができます。

- “超解像高画質”を“入”にすると“SR”が表示されます。
- 超解像高画質はデジタルズームを含むすべてのズーム領域で効果があります。
- 動画撮影時は機能しません。
- 超解像高画質では、下記の機能は使用できません。
  トリプルセルフタイマー、人物メイクアップ、ベストショット撮影の一部

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる（超解像ズーム）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→超解像ズーム

詳しくは58ページをご覧ください。

画像サイズを設定する（静止画サイズ）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→サイズ

詳しくは操作パネルからの操作方法（39ページ）をご覧ください。

静止画の画質を設定する（画質静止画）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→画質（静止画）

高精細-F	画質を優先
標準-N	標準

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、"高精細-F"にすることで、緻密な画質で撮影できます。
- 画質によって、撮影できる枚数が異なります（217ページ）。

動画の画質を設定する（画質動画）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→画質（動画）

動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさやなめらかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位（HD）にすると美しく撮影できますが、撮影できる時間は短くなります。

画質（pixels）		転送レート	フレームレート
HD	1280×720	約10.9メガビット／秒	30フレーム／秒
STD	640×480	約3.8メガビット／秒	30フレーム／秒

- "HD"は画像の横縦比率が16：9になります。
- 画質によって、撮影できる時間が異なります（218ページ）。

人物の顔や風景を美しく撮影する(メイクアップ)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→メイクアップ

人物の顔や風景を美しく補正して、撮影することができます。

人物	肌のコンディションをなめらかに整えたり、日差しによる顔の影を和らげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます(人物メイクアップ)。
風景	色を鮮やかにしたり、もやを除去して、風景を美しく演出して撮影することができます(風景メイクアップ)。

■ 顔を美しく撮影する(人物メイクアップ)

1. 人物メイクアップに設定する

- 人物メイクアップに設定すると、操作パネルに"[icon]"が表示されます。

人物メイクアップアイコン

2. 【SET】を押す

3. 【◀】【▶】で美しさレベル(操作パネルの下から3番目の項目)を設定し、【SET】を押す

- レベルは"0(切)"(補正なし)から"+12(強)"(最高)までの13段階の間で設定できます。数値が大きくなるにしたがって効果が強くなります。

4. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出すると、顔にフレームが表示されます。

5. シャッターを半押しする

ピントが合った顔に、緑色のフレームが表示されます。

6. シャッターを全押しして撮影する

■ 風景を美しく撮影する(風景メイクアップ)

1. 風景メイクアップに設定する

- 風景メイクアップに設定すると、操作パネルに"[icon]"が表示されます。

風景メイクアップアイコン

2. 【SET】を押す

3. 【◀】【▶】で美しく撮影するための演出効果と効果レベル(操作パネルの下から3番目の項目)を設定し、【SET】を押す

鮮やか風景	画像の中の色彩をいっそう際立たせ、鮮明で、色鮮やかな迫力ある風景にします。
もや除去	もやや霧を取り除き、まるで霧が晴れたかのような風景にします。

- 効果レベルは"+1"(弱)と"+2"(強)の2段階の間で設定できます。

4. 撮影したい風景にカメラを向ける

5. シャッターを押して撮影する

参考

- 動画撮影時に、メイクアップは使用できません。
- 人物メイクアップでは下記の機能は使用できません。
  トリプルセルフタイマー、顔検出、風景メイクアップ、ベストショット撮影の一部
- 風景メイクアップでは下記の機能は使用できません。
  トリプルセルフタイマー、人物メイクアップ、顔検出、ライティング、カラーフィルター、シャープネス、彩度、コントラスト、ベストショット撮影の一部
- オート撮影モードをプレミアムオート（28ページ）にすると、人物メイクアップや風景メイクアップは自動的に作動します。そのため、メイクアップの操作はできなくなります。

明るさを補正する（EVシフト）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→EVシフト

詳しくは操作パネルからの操作方法（53ページ）をご覧ください。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→ホワイトバランス

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

オート	自動的にホワイトバランスを調整
太陽光	晴天時の野外での撮影用
曇天	薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰	晴天時のビルや木の陰などの撮影用
昼白色	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
電球	電球の雰囲気を消した撮影用
マニュアル	さまざまな光源下で適正な色に手動で調整することができます。 ①“マニュアル”を選ぶ ②撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す ③【SET】を押す 白い紙 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。

- “オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。

ISO感度を変える(ISO感度)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→ISO感度

詳しくは操作パネルからの操作方法(49ページ)をご覧ください。

光の測りかたを変える(測光方式)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→測光方式

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

マルチ	画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出で撮影できます。
中央重点	中央部を重点的に測光します。自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。
スポット	センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

- “マルチ”設定時は、撮影モードの画面にアイコンが表示されません。

画像の明るさを最適化する(ライティング)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→ライティング
明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適に調整して撮影できます。

入	明るさが補正されます。ただし、撮影後、画像の保存までに時間がかかります。
切	明るさの補正は行いません。

- 撮影済みの画像に対しても、明るい所と暗い所の明るさのバランスを調整することができます(101ページ)。

全体の色調を変える(カラーフィルター)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→カラーフィルター
設定できる内容:切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/ピンク/紫

鮮鋭さを変える(シャープネス)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→シャープネス
+2(もっとも鮮鋭度が高い)から−2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

操作手順:【📷】(撮影)→【MENU】→画質設定タブ→彩度
+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から−2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える（コントラスト）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→コントラスト

＋2（明暗の差がもっとも大きい）から－2（明暗の差がもっとも小さい）までの5段階から選べます。

フラッシュの明るさを変える（フラッシュ光量）

操作手順：【📷】（撮影）→【MENU】→画質設定タブ→フラッシュ光量

＋2（フラッシュの明るさが最も強い）から－2（フラッシュの明るさが最も弱い）までの5段階から選べます。

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

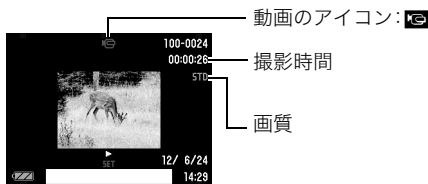
静止画や動画を再生する

撮影した静止画を見る

操作方法については34ページを参照してください。

撮影した動画を見る

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したい動画(ムービー)を表示させる

2. 【SET】を押して、再生を始める

動画の再生中にできること

早送り／早戻しする	**【◀】【▶】** • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。 • 通常の再生に戻るときは【SET】を押します。
再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	**【◀】【▶】** • 押し続けると、連続してコマ送りします。 • 地図モードで再生したときは、コマ送りできません。
音量を調節する	**【▼】**を押したのち**【▲】【▼】**を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示のあり／なしを切り替える	**【▲】**(DISP)
拡大する	ズームレバーを**【[🌲]】**(🔍)側にスライド • 拡大中は、**【▲】【▼】【◀】【▶】**で拡大部分を移動できます。動画は4.5倍まで拡大できます。 • 地図モードで再生したときは、拡大できません。
再生をやめる	【MENU】

• このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

撮影したパノラマ画像を見る

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したいパノラマ画像を表示させる

2. 【SET】を押して、パノラマ画像を再生する

パノラマ画像が、左右または上下にスクロールして再生されます。

再生中にできること

再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】(スライド方向が右方向、左方向の場合) 【▲】【▼】(スライド方向が上方向、下方向の場合) • 押し続けると、連続してコマ送りします。 • 地図モードで再生したときは、コマ送りできません。
情報表示のあり／なしを切り替える	【▲】(DISP)
再生をやめる	【MENU】

• パノラマ画像は下記の機能が使用できません。
ダイナミックフォト、ムービーへ変換、モーションプリント、ムービーカット、トリミング、リサイズ

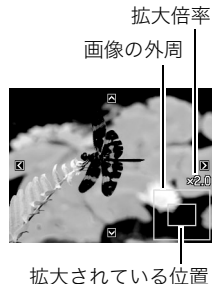
画像を拡大して表示する

1. 再生モードにして【◀】【▶】で再生したい画像を表示させる

2. ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる

【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。ズームレバーを【▦】側にスライドさせると、縮小表示されます。

- 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 元の表示に戻るには【MENU】または【BS】を押します。
- 最大8倍まで拡大できますが、画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

• 拡大中に【SET】を押すと、静止画拡大倍率を保ったまま、【◀】【▶】で次の画像を見ることができます。もう一度【SET】を押すと、画像の拡大表示される位置を移動できる状態へ戻ります。

画像を一覧表示する

1. 再生モードにしてズームレバーを【】()側にスライドさせる

【▲】【▼】【◀】【▶】を押していくと、前後の画像を表示します。

通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

カレンダー形式で画像を表示する(カレンダー表示)

1. 再生モードにしてズームレバーを【】()側に2回スライドさせる

1ヶ月分のカレンダーの日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができます。

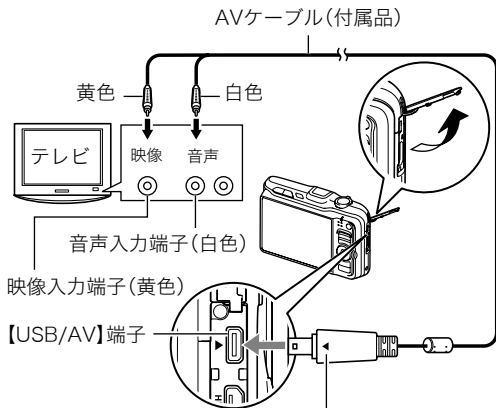
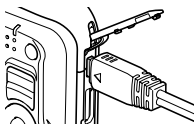
【▲】【▼】【◀】【▶】で見たい画像のある日付に枠を合わせ【SET】を押すと、その日に撮影した最初の画像が表示されます。

カレンダー表示をやめるには、【MENU】または【BS】を押します。

- 下記の機能を使用して保存した画像は、保存した時点の日付で表示されます。日時編集した画像は撮影時の日付で表示されます。
  ライティング/ホワイトバランス/明るさ編集/リサイズ/トリミング/コピー/モーションプリント

テレビで静止画や動画を見る

1. 付属のAVケーブルでカメラとテレビをつなぐ

- AVケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

2. テレビの映像入力を"ビデオ入力"に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

3. 【▶】(再生)を押してカメラの電源を入れる

テレビの画面に画像が表示されます(液晶モニターには何も表示されません)。

- AVケーブルを接続しているときは、【ON/OFF】(電源)や【📷】(撮影)を押しても再生モードで電源を入れることができません。
- 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更できます(186ページ)。

4. 以後、カメラで再生の操作を行う

重要

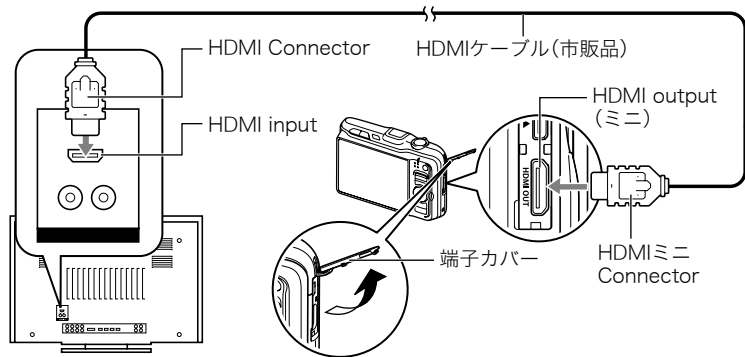
- テレビに画像を映すとき、カメラの【📷】（撮影）／【▶】（再生）の動作を必ず“パワーオン”または“パワーオン／オフ”に設定しておいてください（183ページ）。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

- 音声はモノラルになります。
- お使いのテレビによっては、画像の一部が表示されないことがあります。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。また、【▲】（DISP）で表示内容を切り替えることもできます。

ハイビジョンテレビで高画質で見たいときは

市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぎます。再生の方法は91ページをご覧ください。

- HDMIケーブル（市販品）は右記のロゴのあるものをお使いください。

重要

- 撮影モードではテレビ出力できません。

参考

- カメラ本体側はHDMIミニConnector、テレビ側はテレビのHDMI Connectorに合ったHDMIケーブルをご使用ください。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。

- カメラ本体と接続機器のHDMI output（出力端子）同士での接続は故障の原因となりますので行わないようにしてください。
- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書にしたがって設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。
- USB/AV端子とHDMI output（出力端子）の両方にケーブルが差し込まれている場合は、HDMI output（出力端子）を優先に出力します。
- HDMI出力を行わない場合は、接続したHDMIケーブルを抜いてください。カメラ本体の表示が正常に動作しない場合があります。
- 音声はモノラルになります。
- お使いのテレビによっては、映像や音声が正常に出ないことがあります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

■ HDMI出力の出力方法を変える（HDMI出力）

操作手順：【MENU】→設定タブ→HDMI出力

HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号の形式が変更できます。

オート	接続したテレビに合った形式に自動的に切り替わります。 通常はこの設定でご使用ください。
1080i	1080i形式で出力します。※
480p	480p形式で出力します。
576p	576p形式で出力します。

※1080iは、1080 60iに対応していますが、1080 50iには対応していません。そのため、1080iの60iに対応していないPAL受信地域でのデジタルTVをご使用の際には、576p出力となる場合があります。PAL受信地域で、オートで表示されない場合は、576pに設定を変更してください。

- “オート”でテレビに表示されない場合には、テレビに合わせて他の設定に変更してください。

カメラの画像をDVDレコーダーやビデオデッキに録画する

例として、付属のAVケーブルを次のように接続します。

- DVDレコーダーやビデオデッキ側：映像入力端子、音声入力端子
- カメラ側：USB/AV接続端子

このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。スライドショーの設定を“[動画]のみ”にすれば、動画だけの録画もできます（96ページ）。また、【▲】（DISP）を押して画面上の情報表示を消すことで、画像だけを録画することができます（188ページ）。

DVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像の見方や録画方法については、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

再生時のその他の機能（再生機能）

ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作方法については、69ページをご覧ください。

自動的にページ送りして楽しむ（スライドショー）

操作手順：【▶】（再生）→【MENU】→再生機能タブ→スライドショー

開始	スライドショーを開始します。
表示画像	スライドショーで再生させるものを選びます。 全画像：静止画および動画 ▭のみ：静止画のみ 🎥のみ：動画のみ 日付指定：指定した日付の画面のみ • 日付は、下記の手順で指定してください。 ①【▲】【▼】【◀】【▶】で表示させたい日付に赤枠を移動し、【SET】を押す 指定した日付にチェックが入ります。 ②手順①を繰り返し、表示させたい日付をすべて指定したら、【BS】を押す • 下記の機能を使用して保存した画像は、保存した時点の日付で表示されます。 ライティング／ホワイトバランス／明るさ編集／リサイズ／トリミング／コピー／モーションプリント • 日時編集した画像は、撮影時の日付で表示されます。 • チェックは最大15個入れることができます。 • 電源を切ると、チェックはすべて消えます。

時間	スライドショー開始から終了までの時間を設定します。 1〜5分、10分、15分、30分、60分
間隔	切り替わりの間隔を設定します。 1〜30秒、または"最速"を【◀】【▶】で選びます。 1〜30秒を選ぶと、動画は最初から最後まで再生されます。 "最速"を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。
エフェクト	希望のエフェクト(特殊効果)を選びます。 パターン1〜4: 特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示します。BGMも再生します。 • "パターン1〜4"の特殊効果は同じですが、BGMがそれぞれ異なります。 • 下記の場合は、特殊効果が無効になります。 – 表示画像を"[動画アイコン]のみ"にした場合 – 間隔を"最速"、"1秒"または、"2秒"にした場合 – 動画の再生の前後 切:特殊効果とBGMの再生をしない。

- 【SET】を押すとスライドショーを中断します。また、【MENU】を押すと中断してメニューに戻ります。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押したのち【▲】【▼】を押します。
- 画面の切り替わり中はボタン操作ができません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。

好みのBGMをパソコンからメモリーへコピーする

スライドショーの“エフェクト”を実行したときの内蔵BGMを、好みのBGMに切り替えることができます。

使用可能なファイル

- PCM形式(16ビット、モノラル)のWAVファイル
- サンプリング周波数:11.025kHz/22.05kHz/44.1kHz

使用可能なファイル数:9ファイル
ファイル名:SSBGM001.WAV~SSBGM009.WAV

- パソコンには、上記の名称で保存してください。
- どのエフェクトパターンを選んでも、切り替えたBGMをファイル名の順で繰り返し連続再生します。

1. カメラとパソコンを接続する(151、166ページ)

メモリーカードにBGMファイルを入れたいときは、あらかじめカメラにメモリーカードを入れておいてください。

---

2. 次のように操作して、メモリーカードまたは内蔵メモリーを開く

「リムーバブルディスク(ドライブ)」として認識します。

- Windows

  ① Windows 7/Windows Vista:“スタート”→“コンピュータ”の順でクリック
  Windows XP:“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリック
  Windows 2000:“マイコンピュータ”をダブルクリック

  ② “リムーバブルディスク”をダブルクリック

- Macintosh

  ① 表示されたドライブをダブルクリックする

3. “SSBGM”フォルダを作成する

4. 作成した“SSBGM”フォルダをダブルクリックし、好みのBGMファイルをコピーする

- ファイルのコピーのしかたは、パソコンに付属の取扱説明書を参照してください。
- メモリーカードと内蔵メモリーの両方にBGMファイルを入れた場合は、メモリーカードが優先されます。
- フォルダについては173ページを参照してください。

5. カメラをパソコンから取りはずす（154、167ページ）

動画から静止画を作成する（モーションプリント）

操作手順：【▶】（再生）→素材にしたい動画を表示→【MENU】→再生機能タブ→モーションプリント

1. 【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探す

【◀】【▶】を押し続けると、早戻し／早送りができます。

2. 【▲】【▼】で“作成”を選び、【SET】を押す

- このカメラで撮影した動画以外は、モーションプリントできません。

動画をカットする(ムービーカット)

操作手順:【▶】(再生)→カットしたい動画を表示→【MENU】→再生機能タブ→ムービーカット

以下の3通りの方法で動画の一部をカット(削除)できます。

カット(前カット)	選択した場面から前をカットします。
カット(中カット)	選択した場面と場面の間をカットします。
カット(後カット)	選択した場面から後をカットします。

1. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

2. 【◀】【▶】を押して、カットしたい位置(境界のコマ)を探す

- 動画を再生し、【SET】を押して一時停止することで、カットしたい位置を探すこともできます。再生中は【◀】【▶】を押して、早戻し/早送りすることができます。

カットされる範囲(赤い部分)

3. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す

カット(前カット)	カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
カット(中カット)	① カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す ② カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
カット(後カット)	カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す

4. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

カットには、しばらく時間がかかります。“処理中です　しばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。カットする動画が長いときは時間がかかることがあります。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。

参考

- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カットしようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはできません。
- 動画再生中に【SET】を押して一時停止し、【▼】を押してカットすることもできます。ただし、地図モードで動画を一時停止した場合は、カットできません。

画像の明るさを最適化する（ライティング）

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→ライティング

撮影した画像の明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適に調整します。

+2	“＋1”より強く明るさが補正されます。
+1	明るさが補正されます。
キャンセル	明るさの補正は行いません。

参考

- 撮影時にライティング補正をした方が、より良好な結果が得られます(84ページ)。
- 補正した画像は、補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→ホワイトバランス

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

太陽光	晴天時の野外で撮影したような色味
曇天	薄雲～雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
日陰	ビルや木の陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
N昼白色	白色･昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
D昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
電球	電球の雰囲気を消して撮影したような色味
キャンセル	色味の変更を中止

参考

- 撮影時にホワイトバランスを補正することもできます(82ページ)。
- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える(明るさ編集)

操作手順: 【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→明るさ編集

+2(画像がもっとも明るい)から−2(画像がもっとも暗い)までの5段階から選べます。

参考

- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

印刷する画像を選ぶ(プリント設定)

操作手順: 【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→プリント設定(DPOF)

詳しくは143ページをご覧ください。

ファイルを消去できないようにする（プロテクト）

操作手順：【▶】（再生）→【MENU】→再生機能タブ→プロテクト

オン	ファイルごとにプロテクトをかけます。 ①【◀】【▶】でプロテクトをかけたいファイルを表示させる ②【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押す プロテクトがかかり、“O┳”が表示されます。 ③続けて別のファイルにプロテクトをかける場合は手順①、手順②を繰り返す プロテクトの設定をやめるには、【MENU】を押します。プロテクトを解除するには手順②で“オフ”を選んで【SET】を押します。
全ファイルオン	すべてのファイルにプロテクトをかけます。 ①【▲】【▼】で“全ファイル　オン”を選び、【SET】を押す ②【MENU】を押す すべてのファイルのプロテクトを解除するには、手順①で“全ファイル　オフ”を選んで【SET】を押します。

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作（187ページ）を行うと、消去されてしまいます。

撮影画像の日時を修正する（日時編集）

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→日時編集

【▲】【▼】	カーソル（選択枠）の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル（選択枠）を移動します。
【BS】	12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

日時を変更した後は【SET】を押して修正結果を確定させます。

参考

- タイムスタンプ機能（180ページ）で写し込んだ日付と時刻は修正できません。
- プロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。
- 入力できる日付は、1980年〜2049年です。

画像に記録された位置情報を消去する（地点情報消去）

操作手順：【▶】（再生）→静止画または動画を表示→【MENU】→再生機能タブ→地点情報消去

詳しくは133ページをご覧ください。

画像を回転させる(回転表示)

操作手順:【▶】(再生)→静止画または動画を表示→【MENU】→再生機能タブ→回転表示

1. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す

【SET】を押すごとに、90°左回りに回転します。

---

2. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

参考

- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 画像一覧表示、カレンダー表示では、回転前の画像が表示されます。

画像サイズを小さくする(リサイズ)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→リサイズ

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。リサイズ後の画像は10M／6M／VGAの3種類が選択できます。

- “3:2”、“16:9”の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

静止画の一部を切り抜く(トリミング)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→トリミング

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。

ズームレバーで静止画を拡大／縮小、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えるなどして、切り抜く部分を決めて【SET】を押します。

- "3:2"、"16:9"の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

ファイルをコピーする(コピー)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→コピー

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。

内蔵→カード	内蔵メモリーからメモリーカードにコピーします。 この操作では、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。
カード→内蔵	メモリーカード内のファイルをひとつずつ内蔵メモリーにコピーできます。ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダにコピーされます。 ①【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ ②【▲】【▼】で"コピー"を選び【SET】を押す

参考

- コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画ファイルだけです。
- コピーしたファイルをカレンダー表示した場合、ファイルはコピーした日付上に表示されます(90ページ)。

Hybrid-GPS（ハイブリッドGPS）機能を使う

本機は、GPS衛星からの電波をキャッチして現在の位置と時刻を計算する従来の「GPS（全地球測位システム）機能」に加え、3軸方位センサーと3軸加速度センサーによる自律測位技術を応用した独自の「モーションセンサー」を搭載しました。この２つの機能を組み合わせたハイブリッドGPS機能により、GPS衛星電波の届かない屋内や地下などでも、位置情報（緯度・経度）を取得することができます。

この機能を活かし、本機では次のようなことができます。

- 撮影した場所の位置情報（緯度・経度・カメラを向けた方向）を、画像（静止画および動画）に記録することができます。
- 撮影した場所の地名を、画像（静止画および動画）に記録することができます。
- 撮影した場所の地名を、画像（静止画）に直接写し込むことができます。
- 撮影した画像と撮影した場所を、地図上に表示することができます。
- 旅行先で、地図を見ながら現在地近くのおすすめ撮影スポットを探し出すことができます。
- 地図上に移動した軌跡を表示することができます。
- GPS衛星から受信した電波を利用して、本機の時刻を自動的に修正することができます。

GPS (Global Positioning System)とは、衛星軌道上のGPS衛星から送信される電波を利用して、地球上の位置を計測するシステム（全地球測位システム）のことです。このGPS機能を使うと、GPS衛星から電波を受信して、現在の位置と時刻を計算することができます。

- 現在の位置を計算することを、「測位」といいます。

撮影した場所の情報（位置情報・地名）を画像に記録する

GPS機能を設定する（GPS）

ハイブリッドGPS機能を使うときは、下記のように操作して“GPS”を“入”に設定し、GPS衛星からの電波を受信してください。

1. 本機を持って、屋外など空が開けた場所に移動する

---

2. 【ON/OFF】（電源）を押して電源を入れ、【MENU】を押す

---

3. “設定”タブ→“GPS”と選び、【▶】を押す

---

4. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

---

5. GPS電波受信状態表示（112ページ）が“ ”“ ”（受信状態）になるまで待つ

重要

- “GPS”を“入”に設定した場合は、カメラ本体の電源を切ってもGPS機能が働きます。飛行機の離着陸時など、電子機器の電源を切る必要がある場所では、必ず“GPS”を“切”に設定した後、カメラ本体の電源も切ってください。

参考

- 初めてのGPS衛星からの電波受信は、時間が数分かかる場合があります。
- “GPS”が“入”の状態でカメラ本体の電源が入っているときは、連続的に位置情報（緯度・経度）を取得します。
- “GPS”が“入”の状態でカメラ本体の電源を切ったときは、間欠的に位置情報（緯度・経度）を取得します。

撮影した場所の位置情報を画像に記録する(緯度経度記録)

"緯度経度記録"を"入"に設定すると、ハイブリッドGPS機能により測位した撮影場所の位置情報(緯度・経度・カメラを向けた方向)を、撮影時に画像(静止画および動画)に記録することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. "設定"タブ→"緯度経度記録"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で"入"を選び、【SET】を押す

4. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】(ムービー)を押す

画像が撮影され、撮影した場所の位置情報(緯度・経度・方向)が記録されます。

- 静止画の場合、シャッターを押し込んだときの位置情報が記録されます。動画の場合、【●】(ムービー)を押したときの位置情報が記録されます。

■ GPS電波受信状態を確認する

GPS衛星からの電波の受信状況によって画面に表示されるアイコンが変わりますので、撮影する前にアイコンでGPS電波受信状態を確認してください。

アイコン	電波受信状況
(アイコン)	GPS衛星から電波を受信しています。 画像にGPS測位による位置情報が記録されます。
(アイコン)	
(アイコン)	GPS電波の受信状態が悪いため、GPS測位による位置情報が記録できません。画像にはモーションセンサーによる位置情報が記録されます。
(アイコン)	GPS電波の届かない場所にいるため、GPS測位による位置情報が記録できません。画像にはモーションセンサーによる位置情報が記録されます。
OFF	"GPS"が"切"に設定されています(110ページ)。

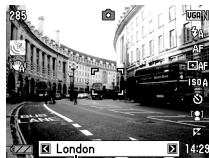
参考

- 記録した緯度・経度・方向は、消去することができます(133ページ)。
- 一度記録した緯度・経度・方向を変更することはできません。
- 移動しながら撮影すると、撮影した場所と記録された位置情報がずれる場合があります。
- "GPS"(110ページ)を"切"に設定すると、緯度経度記録の設定は無効になります。
- お買い上げ時は緯度・経度・方向が記録されるように設定されていますので、緯度・経度を記録したくない場合は、"緯度経度記録"を"切"に設定してください。
- "緯度経度記録"を"入"に設定した場合は、撮影した静止画や動画に位置情報のデータが記録されます。画像データを人に渡したり、インターネット等に公開される場合、その位置情報も公開されることがありますのでご注意ください。位置情報を公開したくない場合は"地点情報消去"(133ページ)により位置情報を消去するか、または撮影時に位置情報を記録しないようにして撮影してください。

撮影した場所の地名を画像に記録する(地名入力)

本機に内蔵されている約100万件の地名データの中から撮影した場所の地名(国名／ランドマーク名)を選んで、画像(静止画および動画)に記録することができます。

1. 撮影モードにして、カメラを被写体に向ける

測位した現在位置の緯度･経度をもとに、本機の地名データの中から地名(国名／ランドマーク名)の候補を画面に表示します。

地名候補表示

2. 【◀】【▶】を押して、記録したい地名を選ぶ

- 地名の候補は、最大6個まであります。
- “ーーー”(非表示)を選んだときは、画像に地名は記録されません。
- “ーーー”(非表示)を選ぶと、地名候補表示は約２秒後に消えます。このとき【◀】【▶】を押すと、地名候補表示は再度表示されます。
- 地名の文字列が長くて、一度にすべて表示できないときは、スクロールして表示します。

3. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】(ムービー)を押す

画像が撮影され、地名が画像に記録されます。

■ 記録される地名について

- 地名候補は、測位した現在位置の緯度･経度をもとに本機に内蔵された地名データから国名／ランドマーク名を検索して表示します。
- 現在位置の緯度･経度に適した地名がない場合は、"ーーー"が表示されます。
- 表示される地名は、あくまでも目安です。正確でない場合があります。
- ランドマーク名は、正式な名称と異なる場合があります。
- 希望の地名(国名／ランドマーク名)が収録されていない場合があります。
- 移動しながら撮影すると、撮影した場所の位置情報と記録された地名の場所がずれる場合があります。
- "GPS"(110ページ)を"切"に設定すると、地名を入力することはできません。

参考

- 記録した地名は、消去することができます(133ページ)。
- 一度記録した地名を変更することはできません(113ページ)。

撮影した場所の地名を画像に写し込む（地名スタンプ）

地名データの中から撮影した場所の地名（国名／ランドマーク名）を選んで、画像（静止画）に直接写し込むことができます。

重要

- 地名入力と異なり、いったん画像に写し込まれた地名を変更したり、消去することはできません。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“地名スタンプ”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

4. カメラを被写体に向け、地名入力と同様の操作により写し込みたい地名を選ぶ（113ページ）

5. シャッターを押して撮影する

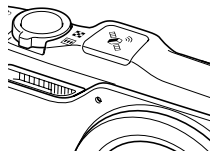
画像が撮影され、地名が画像に直接写し込まれます。

参考

- ベストショット撮影の一部では、地名スタンプは無効となります。
- 移動しながら撮影すると、撮影した場所の位置情報と写し込まれた地名の場所がずれる場合があります。
- “GPS”（110ページ）を“切”に設定すると、地名を写し込むことはできません。

ハイブリッドGPS撮影時のご注意

- GPS衛星の電波を受信するとき、GPSアンテナ部を空に向け、カメラを静止状態にすると受信しやすくなります。
- GPS衛星は常に移動しているため、お使いになる場所や時間などによっては測位に時間がかかったり、測位できない場合があります。
- GPS衛星の電波を遮断したり反射してしまう以下のような場所では、うまく電波を受信することができません。電波を受信するためには屋外など空の開けた場所に移動してください。

  - 建物の中や地下
  - 高層ビルの間
  - 高架の下
  - トンネルの中
  - 高圧電線の近く
  - 密集した樹木の間
- 本機を持ち運ぶときは、金属製のカバンなどに入れないでください。金属製のものでカメラを覆うと、GPS衛星の電波を受信することができなくなります。
- 本機を磁石や金属に近づけると方位センサーに誤差が生じることがあります。できる限り、磁気や金属に近づけないでください。
- 1.5GHz帯の電波を利用した携帯電話などを本機の近くで使うと、うまくGPS衛星の電波を受信できなくなる場合があります。
- GPS衛星による測位は、電波の状況により数百メートルの誤差を生じる場合があります。
- GPS衛星の電波が受信できない場所では、GPS衛星の電波が受信できているときと比べ、位置精度などが落ちる場合があります。

- 購入後、初めてGPS衛星の電波を受信するとき、また、GPS衛星の電波を受信できない状態が長時間続いたときや、電池を抜いた状態で長時間放置していたカメラでGPS衛星の電波を受信しようとするときは、受信するまで数分かかる場合があります。
- 本機はハイブリッドGPS機能により、GPS衛星からの電波が受信できない場所でも位置情報（緯度・経度）を取得することができますが、GPS衛星の受信状況が悪い状態が続いて長時間モーションセンサーのみによる測位が続いたときや、高架下や鉄橋の上、建物、歩道橋、鉄塔、電気機器、スチール製の机や椅子の近くなど磁気の影響を受ける場所では、方位や緯度・経度が実際と異なって測位される場合があります。できる限り正確な位置情報を取得するためには、時々上空の開けた場所に移動してGPS衛星の電波を受信することをおすすめします。また、GPS電波を受信できたときに、モーションセンサーで測位したデータを補正します。
- 以下のようなときは、方位センサーによる方位測定ができない場合があります。
  – “GPS”を“入”に設定した直後（110ページ）
  – 電池を入れ、電源を入れた直後
- 自動車、オートバイなどの運転をしながら、GPS機能を使用することはおやめください。
- このカメラのGPS機能の測地系は、世界測地系（WGS84：World Geodetic System 1984）です。

カメラに収録された地図データを活用する（地図モード）

【🌐】（地図）を押して地図モードにすると、カメラに収録された地図データを表示して、活用することができます。

地図モードについて

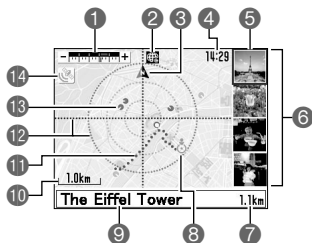
地図モードには下記の２つのモードがあり、【🌐】（地図）を押すたびに交互に切り替わります。目的に応じて設定してください。

ユーザー画像モード	撮影した画像と撮影した場所とカメラを向けた方向を、地図上に表示することができます。 • 位置情報を記録した画像と撮影した場所と撮影時にカメラを向けた方向（水平方向）を、カメラに収録した地図上に表示することができます。 移動した軌跡を、地図上に表示することができます。 • カメラに保存された測位データを使って、移動した軌跡をカメラに収録した地図上に表示することができます。
撮影スポットモード	世界の観光地や景勝地など、おすすめ撮影スポットを地図から探すことができます。 • 本機には、世界の観光地や景勝地など、約1万点の撮影スポットデータを内蔵しています。一度は訪れてみたい観光地やステキな写真が撮影できる景勝地などが数多く登録されていますので、旅行先で現在地近くのおすすめ撮影スポットを、地図を見ながら探し出すなど、旅行先での風景撮影がさらに楽しくなります。

• 画像のみを表示したいときは、再生モードに切り替えてください（34ページ）。

地図モードの表示内容

■ ユーザー画像モード

撮影した画像を地図上に表示すると、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

❶ズームバー
表示中の地図の縮尺と表示可能な縮尺を表示します。

❷モードアイコン
現在のモード(REC／PLAY／ユーザー画像／撮影スポット)を示します。

❸方位アイコン
地図の方向(北)を示します。

❹現在時刻
現在時刻を表示します。
- 時刻は、"日時設定"で指定された形式(12時間／24時間表示)で示します。

❺カーソル
ユーザー画像を四角で囲んで表示します。
- カーソルで囲まれた画像を示すユーザー画像マークは、点滅して表示します。

❻画像リスト
地図上にある撮影画像(ユーザー画像)を一覧表示します。
- ユーザー画像リストの表示順は、レーダー表示の中心から最も近いユーザー画像マークから時計回りの順番で、上から下に表示されます。

❼到達距離
レーダー表示の中心から点滅中のユーザー画像マークまでの直線距離を表示します。

❽現在地マーク

現在地を“ ”マークで表示します。

- マークの色は、GPSの測位状態を表します（緑：GPS測位状態、グレー：GPS未測位状態）。

❾地名

撮影した画像（ユーザー画像）に記録した地名を表示します。

- 地名を一度にすべて表示できない場合は、スクロールして表示します。

❿縮尺

地図の縮尺を表示します。

⓫測位ログ

測位ログ（測位した位置情報）を表示することにより、移動した軌跡を確認することができます。

⓬レーダー表示

地図上に距離の目安と方位を表す同心円と十字マークを表示します。

⓭ユーザー画像マーク

撮影した画像のある場所に“ ”マークを表示します。

- ユーザー画像マークは青色で表示されます。ただし、レーダー表示の外にあるマークは水色になります。
- マーク内の白い扇状の部分は、撮影時にカメラを向けた水平方向を22.5度単位で示しています。

⓮GPS電波受信状態アイコン

現在のGPS衛星の電波受信状況を示します（112ページ）。

■ 撮影スポットモード

おすすめ撮影スポットを地図上に表示すると、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

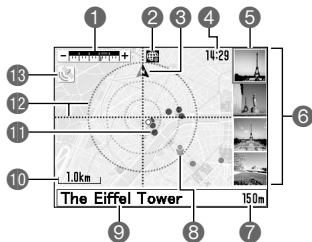
• 説明のないアイコンや数字は、ユーザー画像モードと同じ内容です。

❶ズームバー

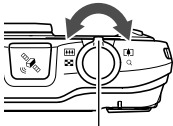
❷モードアイコン

❸方位アイコン

❹現在時刻

❺カーソル

❻画像リスト

地図上にあるおすすめ撮影スポットの画像を一覧表示します。

• 撮影スポット画像リストの表示順は、レーダー表示の中心から最も近い撮影スポットマークから時計回りの順番で、上から下に表示されます。

❼到達距離

❽現在地マーク

現在地を“ ”マークで表示します。

• マークの色は、GPSの測位状態を表します(緑:GPS測位状態、グレー:GPS未測位状態)。

❾撮影スポット名

おすすめ撮影スポットの名称を表示します。

• 名称を一度にすべて表示できない場合は、スクロールして表示します。

❿縮尺

⓫撮影スポットマーク

地図上に存在するおすすめ撮影スポットの位置を“ ● ”マークで表示します。

• 撮影スポットマークは赤色で表示されます。ただし、レーダー表示の外にあるマークは紫色になります。

⓬レーダー表示

⓭GPS電波受信状態アイコン

地図モードでの操作

1. 【⊕】(地図)を押して、地図モードを設定する

- 【⊕】(地図)を押すたびに、ユーザー画像モードと撮影スポットモードが交互に切り替わります。

2. 下記の操作により、ユーザー画像マークまたは撮影スポットマークを、画面のレーダー表示の中心近くに移動させる

地図をスクロールする	【▲】【▼】【◀】【▶】を押す • 地図の中心を現在の位置に戻したいときは、【 】(現在位置)を押してください。レーダー表示画面の中央に現在地マーク" "が表示されます。 • "GPS"(110ページ)を"切"に設定すると、【 】(現在位置)を押しても無効となります。
地図の縮尺を変更する	ズームレバーをスライドさせる 【 】(広角):縮尺が小さくなり、地図が広域になります。 【 】(望遠):縮尺が大きくなり、地図が詳細になります。 ズームレバー

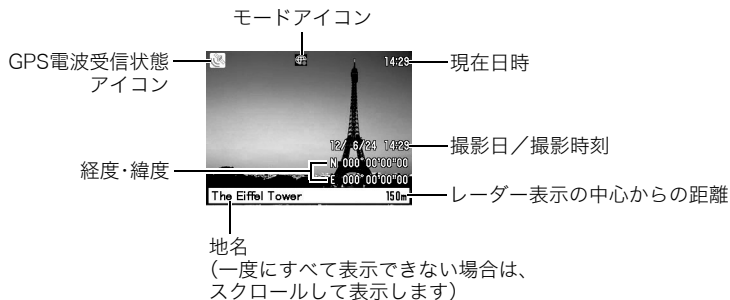
- ユーザー画像マークまたは撮影スポットマークを、画面のレーダー表示の中心に移動させると、移動させたマークに対応する撮影画像(ユーザー画像)または撮影スポット画像が、地図の右横にある画像リストの一番上に表示されます。
- 画像リストに表示される画像は、レーダー表示の中心に一番近いマークから時計回りの順番で、上から下に表示されます。

3. 【SET】を押す

画像リスト内のカーソルのある撮影画像(ユーザー画像)または撮影スポット画像のみが表示されます。

- 【◀】【▶】で画像リスト内の上下の画像に切り替えます。
- ズームレバーを【[♠]】(望遠)側にスライドさせると、画像を拡大して表示します(89ページ)。
- ズームレバーを【[♠♠♠]】(広角)側にスライドさせると、リスト内の画像を一覧表示します(90ページ)。

4. 【▲】(DISP)を押す(188ページ)

下記の情報が表示されます。

重要

- 地図を表示したとき、画面上のズームバーがグレー表示になっている場合は、その場所の詳細な地図データがカメラ本体に収録されていないことを示します。そのため、ズームレバーを【[♠]】(望遠)側にスライドさせて、グレー表示の領域まで地図を詳細表示にしようとしても、ズームポインターはグレー表示の部分には移動しません。

- 地図上に描かれたグレーの枠は、その枠内のより詳細な地図データをカメラ本体が収録していることを示しています。その枠内にレーダー表示の中心があるときに、ズームレバーを【[♠]】(望遠)側にスライドさせると、より高縮尺の地図データが表示されます。
- 地図をスクロールしたときに、カメラ本体に収録されていない地図部分に移動すると、その場所は"No Image"と表示されます。
- 地図をスクロールしてレーダー表示の中心が上記の地図データが収録されていない地図部分になると、収録している低縮尺の地図データ表示に自動的に切り替わります。
- 現在位置を地図上で確認したいときは、【♣】(現在位置)を押してください。現在地マーク"♁"がレーダー表示画面の中央に表示されます。

地図モードの基本設定について

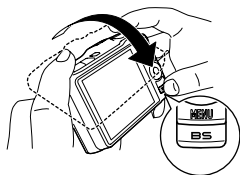
■ 画像リスト内のカーソルを移動できるようにする(カーソル移動)

画像リストに表示されたカーソルを、移動させることができます。

1. 地図モードにして【MENU】を押す

2. "地図設定"タブ→"カーソル移動"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】でカーソルの移動方法を選び、【SET】を押す

入	【BS】を押しながらカメラを前後に約20度傾けると、画像リストに表示されたカーソルが上下に移動します。 MENU BS
切	カーソルを移動させることはできません。

参考

- "GPS"(110ページ)を"切"に設定すると、カーソル移動の設定は無効になります。

その他の地図データの活用方法について(地図設定メニュー)

ここでは地図モードで操作や設定を行うメニュー項目について説明します。

メニューの操作方法については、69ページをご覧ください。

測位した位置情報を保存する(ログの保持)

操作手順:【(地図アイコン)】(地図)→【MENU】→地図設定タブ→ログの保持

さまざまな場所や時間に測位した位置情報を、カメラ内部に保存することができます。"ログの保持"を"入"に設定すると、下記の情報が測位ログデータとしてカメラ内部に14日分保存されます。

- 年月日／時刻
- 緯度・経度
- 高度(GPS測位で取得した場合にのみ有効です)
- 測位方法／測位精度

- "GPS"(110ページ)を"切"に設定すると、ログの保持の設定は無効となります。
- 内蔵メモリーをフォーマットした場合、カメラ内部に保存されている測位ログデータは消去されます。

重要

- 中国では、政府への申請なしに位置情報ログを収集することは違法になりますので、"ログの保持"を"切"に設定してください。

移動した軌跡を地図上で確認する(ログの表示)

操作手順:【(地図アイコン)】(地図)→【MENU】→地図設定タブ→ログの表示

測位ログを地図上に表示することにより、移動した軌跡を確認することができます。"ログの表示"を"入"に設定すると、保存された測位ログが地図上に表示されます。

移動した軌跡の表示期間を指定する(ログの表示期間)

操作手順:【🌐】(地図)→【MENU】→地図設定タブ→ログの表示期間

測位ログを地図上に表示する期間を設定することにより、移動した軌跡を表示する期間を指定することができます。

カメラに保持された測位ログデータをメモリーカードに書き出す(ログの一括保存)

カメラ内部に保持された測位ログデータをKMLファイル(拡張子は.kml)に変換して、メモリーカードに保存することができます。

1. カメラの電源を切り、メモリーカードをカメラに入れる

2. カメラの電源を入れ、【🌐】(地図)を押す

3. 【MENU】を押し、"地図設定"タブ→"ログの一括保存"と選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で"保存"を選び、【SET】を押す

"処理中です　しばらくお待ちください"と表示されたのち、測位ログ情報がメモリーカードに書き出されます。

参考

- KMLファイルは1日ごとに1ファイル書き出され、ファイル内のデータに記録されている日時は、"ログの一括保存"を実行したときにカメラ上で設定されている時刻を基準にしてつけられます。
- 書き出されるKMLファイルは、メモリーカードのDCIMフォルダの中にあるKMLフォルダ内に書き出されます。
- メモリーカードがカメラに入っていないとき、カメラに入っているメモリーカードに十分な空き容量がないとき、または電池カバーが開いているときは、本機能は使用できません。
- このKMLファイルをGoogle Earthなどの地図ソフトに取り込むと、パソコンの地図上に移動した軌跡を表示することができます。

画像リスト内のカーソルを移動できるようにする（カーソル移動）

操作手順：【(地図ボタン)】（地図）→【MENU】→地図設定タブ→カーソル移動

詳しくは125ページをご覧ください。

方位センサーの精度を調整する（方位センサー補正）

カメラ内部にある方位センサーは、周囲の磁気の影響によって正しく作動しなくなることがあります。測定される方位がおかしいと感じたら、下記の操作を行ってください。

1. カメラの電源を入れ、【(地図ボタン)】（地図）を押す

---

2. 【MENU】を押し、“地図設定”タブ→“方位センサー補正”と選び、【SET】を押す

---

3. カメラを落とさないように気をつけながら、約10秒間、カメラを「8の字」にゆっくりと回す

カメラを持った手の手首を使って、8の字になるように動かしてください。磁気を補正し、方位センサーの精度を調整します。

精度調整が終了すると、“正常に終了しました”と表示したのち、地図表示に戻ります。

- “補正に失敗しました　再度、補正をおこなってください”と表示された場合は、再度同じ操作を行ってください。
- 電車や車、磁石、金属が近くにある場所で調整すると、正しく調整できない場合があります。
- “GPS”（110ページ）を“切”に設定すると、方位センサー補正はできません。

他の位置情報付き画像を本機で再生できるようにする（位置情報の更新）

他社のカメラで撮影した位置情報（経度・緯度）が書き込まれた画像などを、本機の地図モードで再生できるようにすることができます。

1. 付属のソフトPhoto Transportを使って、他の位置情報付き画像をパソコンよりメモリーカードにコピーする（161ページ）

---

2. カメラの電源を切り、メモリーカードをカメラに入れる

---

3. カメラの電源を入れ、【🌐】（地図）を押す

---

4. 【MENU】を押し、"地図設定"タブ→"位置情報の更新"と選び、【▶】を押す

---

5. 【▲】【▼】で"更新実行"を選び、【SET】を押す

"処理中です　しばらくお待ちください"と表示されたのち、メモリーカードに入った位置情報付き画像が地図モードで表示できるようになります。

重要

- 位置情報付き画像によっては、位置情報がうまく更新できない場合があります。

その他の設定について（設定メニュー）

メニューの操作方法については、69ページをご覧ください。
その他の設定メニューについては、175ページをご覧ください。

画像縦横方向を感知し自動で回転して表示する（縦横自動回転）

操作手順：【MENU】→設定タブ→縦横自動回転

縦撮りか横撮りかの撮影状況をカメラが自動で感知し、再生時にその縦横方向に合わせて画像を表示します。

- "GPS"（110ページ）を"切"に設定すると、縦横自動回転の設定は無効になります。

入	縦横自動回転が作動します。
切	縦横自動回転が作動しません。

カメラの時刻を自動修正する(時刻自動修正)

操作手順:【MENU】→設定タブ→時刻自動修正

“時刻自動修正”を“入”に設定すると、GPS衛星から受信した時刻情報データを利用して、カメラの時刻を自動的に修正します。

重要

- “サマータイム”の入/切は、自動修正されません。
- 世界都市(32タイムゾーン)の自動修正は、GPS衛星から電波を受信した際に修正を行い、カメラの電源を入れたときに時刻の表示を書き直します。海外旅行に行ったときなど時間が変わる場合は、カメラの電源を入れ直してください。
- “時刻自動修正”が“入”のときに“ワールドタイム”(179ページ)または“日時設定”(181ページ)で時刻を設定し直そうとすると、“時刻自動修正が入なので操作できません”と表示されます。
- タイムゾーンの境界付近では、世界都市や時刻が正しく自動修正されない場合があります。その場合は“時刻自動修正”を“切”にして、“ワールドタイム”(179ページ)または“日時設定”(181ページ)で時刻を修正してください。
- “GPS”(110ページ)を“切”に設定すると、時刻自動修正の設定は無効になります。

位置情報付き画像を再生する(再生モード)

通常の画像と同様に、再生モードで位置情報を記録した画像を見ることができます。

位置情報を記録した画像を見る

操作方法については34ページを参照してください。

- 位置情報付きの画像を表示しているときに【▲】(DISP)を押すと、撮影時に記録した位置情報(経度・緯度)が表示されます。

重要

- 再生モードで表示した画像から、撮影した場所の地図を呼び出すことはできません。

経度・緯度

地名(一度にすべて表示できない場合は、スクロールして表示します)

画像に記録された位置情報を消去する（地点情報消去）

画像に記録された緯度･経度･方向や地名などの位置情報を消去することができます。

重要

- 消去した地点情報は元に戻せません。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で位置情報を消去したい画像を表示させる

2. 【MENU】を押し、“再生機能”タブ→“地点情報消去”と選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で消去したい内容を選び、【SET】を押す

緯度経度消去	画像に記録された緯度･経度･方向を消去します。
地名消去	画像に記録された地名を消去します。
キャンセル	地点情報は消去しません。

ハイブリッドGPS機能使用時のご注意

■ 海外旅行などでお使いの場合は

- 海外旅行などでお使いの場合、国や地域によっては、GPSの使用や位置情報ログを収集することなどが規制されている場合があります。本機にはGPS機能が内蔵されていますので、海外旅行などで外国に持ち込む場合は、事前にGPS機能付きカメラについての持込や位置情報ログの収集についての制限などがないか、大使館や旅行代理店などにご確認ください。
- おすすめ撮影スポットの撮影地点は参考であり、その場所に行くことができない場合や困難な場合があります。また山岳地、ジャングル、砂漠など危険な場所や、治安が悪い場所が存在しますので、現地の規制や最新の治安情報、安全性を事前に十分ご確認ください。

■ カメラの電源を切ったときのハイブリッドGPS機能の動作について

- “GPS”が“入”のときは、カメラの電源を切っても、定期的に現在位置を測位するためにハイブリッドGPS機能が作動しますので、飛行機の離着陸時などGPS機能の電源を切る必要がある場所では、必ず“GPS”を“切”に設定してください（110ページ）。
- “GPS”が“入”のときは、電源を切っても電池は消耗します。

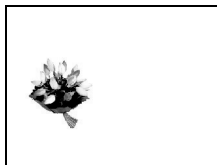
■ 長い間使用していなかった場合は

- 長い間カメラを使用していなかったときや電池を抜いて長時間放置していたときは、GPS電波を受信し、位置を測位するのに、長い時間がかかる場合があります。

■ 強制的な位置補正について

- 加速度センサーと方位センサーを使用して自律測位を行っているため、磁気の乱れが多い環境（電車内や自動車内）、または揺れの大きい環境（カバンの中など）ではハイブリッドGPS機能が不安定になる場合があります。カメラ本体が自律測位を不安定と判定したときは、定期的なGPS電波の受信以外に強制的にGPS電波を受信して、位置を補正する場合があります。

ダイナミックフォト機能

本機の内蔵メモリーに格納されたキャラクターを、静止画や動画と合成することにより、貼り付けたキャラクターを動かすことができます（ダイナミックフォト）。

内蔵キャラクター

別の画像

合成後
（ダイナミックフォト）

キャラクターを画像に貼り付ける（ダイナミックフォト）

キャラクターを静止画や動画に貼り付けます。

操作手順：【▶】（再生）→【MENU】→再生機能タブ→ダイナミックフォト

1. 【◀】【▶】で背景の画像を選び、【SET】を押す

- 次の条件を満たす画像のみ、背景の画像として使用することができます。
  - 本機で撮影した静止画や動画、またはPhoto Transport（160ページ）で本機に転送した静止画
  - 画像サイズが“4:3”のアスペクト比の静止画

---

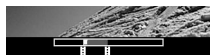
2. 【◀】【▶】で内蔵されているキャラクターの中から貼り付けたいキャラクターを選び、【SET】を押す

---

3. 動画にキャラクターを貼り付ける場合は、【◀】【▶】でキャラクターを貼り付ける時間帯を設定し、【SET】を押す

埋め込む時間帯

- 合成した動画は、キャラクターを貼り付けた場面から最長で20秒となり、前後は削除されます。ただし、背景の動画が20秒以下の場合は、背景の動画と同じ長さの動画が保存されます。
- 静止画にキャラクターを貼り付ける場合は、手順4に進んでください。

---

4. ズームレバーでキャラクターの大きさを調整し、【▲】【▼】【◀】【▶】でキャラクターを貼り付ける位置を決める

5. 貼り付ける位置が決まったら、【SET】を押す

キャラクターと別の画像を合成し、貼り付けたキャラクターが動くダイナミックフォトを制作します。

- 静止画に動くキャラクターを貼り付けると、サイズが2M以下の20枚の静止画で構成されたダイナミックフォトとして保存されます。
- 動画にキャラクターを貼り付けると、ダイナミックフォトは動画ファイルとして保存されます。

参考

- 内蔵されているキャラクターは、消去やフォーマットを行っても消えません。
- コピー機能(内蔵→カード)を使って、キャラクターをメモリーカードにコピーして利用することもできます(108ページ)。

ダイナミックフォト(合成ファイル)を再生する

1. **【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したいダイナミックフォトを表示させる**

2. **ダイナミックフォトを動かしたい場合は、【SET】を押す**

ダイナミックフォトが繰り返し再生されます。

- ダイナミックフォトを表示し、約2秒間放置しておくと、自動的に再生されます。

静止画に動くキャラクターを貼り付けたダイナミックフォトを動画に変換する(ムービーへ変換)

静止画に動くキャラクターを貼り付けた場合は、20枚の連写画像(静止画)の状態でカメラに保存されています。この20枚の連写画像を1つの動画ファイルに変換することができます。

操作手順:【▶】(再生)→ダイナミックフォトを表示→【MENU】→再生機能タブ→ムービーへ変換

- 動画はH.264形式となります。
- 動画のサイズは、640×480 pixelsとなります。

プリント(印刷)する

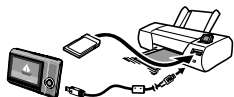
静止画のプリント方法

お店で　プリントする※

画像が入ったメモリーカードを、**プリントサービスのお店**に持参してプリントします。

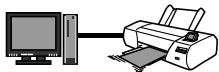
プリンターで　プリントする※

メモリーカードスロット付のプリンターで印刷する

プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書にしたがって操作してください。

カメラを直接プリンターにつないで印刷する

PictBridgeに対応しているプリンターでプリントします。

パソコンを使って　プリントする

画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。

※ プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。→143ページ

カメラをPictBridge対応のプリンターにつないでプリントする

付属のUSBケーブルでPictBridge対応のプリンターとカメラを接続し、カメラの液晶モニター上でプリントする画像を選んでプリントできます。

■ 接続前の設定

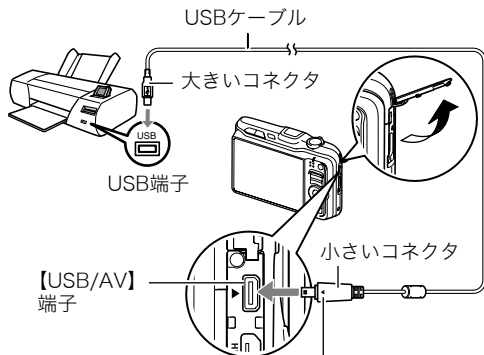
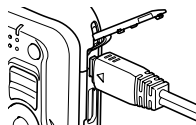
1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

2. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で"PTP(PictBridge)"を選び、【SET】を押す

■ プリンターとの接続

付属のUSBケーブルでカメラとプリンターのUSB端子を接続します。

- USBケーブルからは電源は供給されません。電池残量が十分な電池をカメラに入れてから接続してください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。

- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。

■ プリントする

1. プリンターの電源を入れ、印刷用紙をセットする

---

2. カメラの電源を入れる

プリントメニュー画面が表示されます。

---

3. 【▲】【▼】で“用紙サイズ”を選び、【▶】を押す

---

4. 【▲】【▼】でプリントする用紙サイズを選び、【SET】を押す

- 用紙サイズは次の通りです。
  “L判”、“2L判”、“はがき”、“A4”、“Letter”、“プリンタで設定”
- “プリンタで設定”を選ぶと、プリンター側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

5. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定する

1枚プリント　：1枚ずつプリントする場合に選び、【SET】を押します。続けて【◀】【▶】でプリントしたい画像を選びます。

DPOFプリント：複数の画像やすべての画像をプリントする場合に選び、【SET】を押します。DPOF機能（143ページ）で設定した画像がプリントされます。

- 日付印刷の有無を切り替えるには、【BS】を押します。“あり”を表示させると、日付がプリントされます。

6. 【▲】【▼】で“プリント”を選び、【SET】を押す

プリントが始まり、液晶モニターに“処理中です　しばらくお待ちください”と表示されます。しばらくすると表示が消えますが、プリントは終了していません。カメラのいずれかのボタンを押すと、プリントの状況が再び表示されます。プリントが終了すると、プリントメニュー画面に戻ります。

- “1枚プリント”で別の画像をプリントする場合は、手順5から同様の操作を行ってください。

7. プリントが終了したらカメラの電源を切り、カメラとUSBケーブルをはずす

プリントする画像や枚数を指定しておく(DPOF)

■ DPOF(Digital Print Order Format)とは

プリントしたい「画像の種類」「枚数」「日付印刷の有無」を設定し、メモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。

- プリンターによっては、DPOFに対応していない場合があります。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合があります。

■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

操作手順：【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→プリント設定(DPOF)→選択画像

1. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

2. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は"00"にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【BS】を押して日付印刷を"あり"にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順1～2を繰り返してください。

3. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→プリント設定（DPOF）→全画像

1. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【BS】を押して日付印刷を“あり”にします。

---

2. 【SET】を押す

プリントが完了してもDPOFの設定は解除されません

次回プリント時に前回設定した画像がある場合は、前回設定のままプリントされます。設定を解除する場合は、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容（画像、枚数、日付）が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

■ 日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントできます。

<table>
<tr><td rowspan="2">カメラで
設定する</td><td>DPOF機能で設定する（143ページ）
印刷するごとに、日付印刷の有無を指定できます。
日付を入れて印刷する画像と日付を入れない画像に分けることができます。</td></tr>
<tr><td>タイムスタンプ機能で設定する（180ページ）
• 撮影時点ですべての画像に日付が写し込まれますので、印刷時には必ず日付が印刷されます（写し込まれた日付は消去できません）。
• タイムスタンプ機能で日付を写し込んだ画像には、DPOF機能で日付印刷を設定しないでください。日付が二重に印刷されてしまいます。</td></tr>
<tr><td>パソコンで
設定する</td><td>市販の画像編集ソフトで日付を入れてプリントする</td></tr>
<tr><td>お店に
依頼する</td><td>プリントを注文するとき、お店に日付をプリントするよう依頼する</td></tr>
</table>

■ 本機の対応規格

- PictBridge
  カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。

- PRINT Image Matching III
  PRINT Image Matching III対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。PRINT Image Matching及びPRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

- Exif Print
  Exif Printは、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。

パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

パソコンに画像を保存して見る	• 手動でパソコンに保存して見る（USB接続）（151、165ページ）。 • 無線LAN経由で自動的にパソコンに転送して見る（Eye-Fi通信）（170ページ）。
パソコンに保存した画像をカメラに戻す	画像以外にも、パソコンに表示されている画面をカメラに転送できます（Photo Transport※）（160ページ）。
動画を再生・編集する	• 動画を再生することができます（156、169ページ）。再生ソフトは、使用するパソコンの動作環境に合わせてください。 • 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。
撮影した画像と場所を地図上に表示する	位置情報を記録した画像と撮影した場所をパソコンの地図上で見ることができます（Picasa、Google Earth）（163ページ）。
カメラ、パソコン、携帯電話でダイナミックフォトを楽しむ	• ダイナミックフォトで使用できる多数の「キャラクター」素材をパソコンからカメラへ転送することができます。 • ダイナミックフォトを動画へ変換したり、携帯電話へ送ったりして楽しむことができます（Dynamic Photo Manager※）（163ページ）。

※ Windows専用です。

カメラとパソコン、付属のソフトを使ってできることや操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」(148ページ)
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」(165ページ)

Windowsパソコンを利用する

OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	Windows 7／Windows Vista／Windows XP／Windows 2000	インストールする必要はありません。	151
動画の再生	Windows 7	インストールする必要はありません。 • パソコンにすでにインストールされているWindows Media Player 12で再生することができます。	156
	Windows Vista／Windows XP	QuickTime 7で再生することができます。 • 必要に応じで、ダウンロードしてご利用ください。	
動画の編集	Windows 7／Windows Vista／Windows XP／Windows 2000	ー • 必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。	ー

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
YouTubeサイトへの動画のアップロード	Windows 7／Windows Vista／Windows XP (SP2／SP3)／Windows 2000(SP4)	YouTube Uploader for CASIO※	158
カメラへの画像の転送	Windows 7／Windows Vista／Windows XP／Windows 2000	Photo Transport 1.0※	160
ダイナミックフォトの再生・編集・転送	Windows 7／Windows Vista(SP1)／Windows XP(SP3)	Dynamic Photo Manager※	163
撮影した画像と場所の地図への表示	Windows 7／Windows Vista／Windows XP	Picasa	163
	Windows Vista／Windows XP／Windows 2000	Google Earth	
取扱説明書の表示	Windows 7／Windows Vista／Windows XP (SP2/SP3)／Windows 2000(SP4)	Adobe Reader 9 (すでにインストールしている場合は、不要です。)	163

※ YouTube Uploader for CASIO、Photo TransportおよびDynamic Photo Managerは、64bitのWindows OSには対応していません。

■ 同梱ソフト使用時の動作環境について

使用するソフトによって、パソコンに必要な動作環境が異なります。各ソフトをインストールするときに"お読みください"を読んでご確認ください。「同梱ソフト（付属CD-ROM）使用時の動作環境について（199ページ）」にもまとめて記載しています。

■ 英語版のソフトを利用するときは

- CD-ROMから英語のソフトをインストールしてください。ただし、日本語版と英語版を2重インストールしないでください。
- 英語版のソフトをインストールするときは、CD-ROMをパソコンにセットして、MENU画面が表示されたら、"Language"の"English"をクリックします。

■ 同梱ソフトをWindowsで使用する場合のご注意

- 同梱ソフトは、管理者（Administrator）権限以外は使用できません。
- 自作パソコンでのサポートは行っていません。
- お客様のパソコン環境によっては、対応できない場合があります。

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像（静止画や動画などのファイル）をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

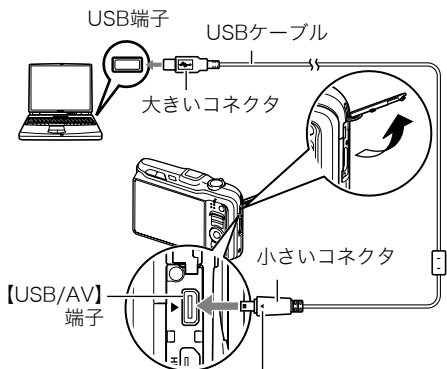
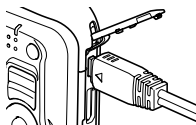
1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す

4. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- USBケーブルからは電源は供給されません。電池残量が十分な電池をカメラに入れてから接続してください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。
- USBケーブルをUSBハブなどを経由してパソコンと接続すると、正常に認識しない場合があります。USBケーブルはパソコンのUSB端子に直接接続してください。

5. カメラの電源を入れる

6. Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“コンピュータ”の順でクリックする
Windows XP：“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリックする
Windows 2000：“マイコンピュータ”をダブルクリックする

Windows Vista

Windows XP

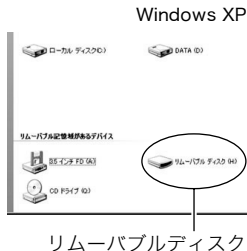
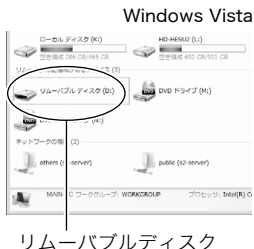
7. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

Windows Vista

リムーバブルディスク

Windows XP

リムーバブルディスク

8. “DCIM”フォルダを右ボタンでクリックする

Windows Vista　Windows XP

DCIM　DCIM

9. メニューの“コピー”をクリックする

10. Windows 7/Windows Vista:“スタート”→“ドキュメント”の順でクリックする
Windows XP:“スタート”→“マイドキュメント”の順でクリックする
Windows 2000:“マイドキュメント”をダブルクリックする

- すでに“DCIM”フォルダが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

11. Windows 7:“ドキュメント”メニューで、“整理”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows Vista:“ドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows XP/Windows 2000:“マイドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

“DCIM”フォルダ(画像ファイルが保存されているフォルダ)が“ドキュメント”(Windows 7/Windows Vista)または“マイドキュメント”(Windows XP/Windows 2000)フォルダにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

12. コピーが終了したらカメラをパソコンからはずす

Windows 7/Windows Vista/Windows XP

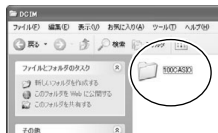
カメラの【ON/OFF】(電源)を押して電源を切り、後面ランプが消灯したのを確認してからカメラをパソコンからはずす。

Windows 2000

パソコン画面上のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択する。その後、後面ランプが消灯したのを確認してから、カメラの【ON/OFF】(電源)を押して電源を切りカメラを取りはずす。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. コピーした“DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

2. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

3. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(173ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

動画を再生する

パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。ご使用のOSによっては再生できない場合があります。その際は別途ソフトをインストールする必要があります。

- Windows 7では、Windows Media Player 12で再生することができます。
- 動画が再生できない場合は、下記アドレスからQuickTime 7をダウンロードし、パソコンにインストールして再生してください。
  http://www.apple.com/jp/quicktime/download/

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS：Windows 7／Windows Vista／Windows XP（SP2/SP3）
CPU：画質HDの場合：Core 2 Duo 3.0GHz以上
画質STDの場合：Pentium 4　3.2GHz以上
必要なソフトウェア：QuickTime 7（Windows 7の場合は不要です。）

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生のご注意

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試しください。
  – 動画の画質を"STD"に設定して撮影する。
  – 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

なお、パソコンで正しく動作しない場合でも、付属のAVケーブルを使って映像入力端子を持ったテレビやパソコンで再生することができます。

YouTubeに動画をアップロードする

ベストショットの“YouTube”のシーンで撮影した動画ファイルを簡単にYouTubeのWebサイトへアップロードするには、付属のCD-ROMに収録されているYouTube Uploader for CASIOをパソコンにインストールします。

■ YouTubeとは

YouTube, LLC社が運営する動画サイトです。YouTubeでは、動画の閲覧や動画をアップロードすることができます。

■ YouTube Uploader for CASIOをインストールする

1. CD-ROMのメニュー画面で“YouTube Uploader for CASIO”を選ぶ

---

2. “お読みください”をクリックしてインストールの条件や動作環境を読んだ後、インストールする

■ 動画ファイルをYouTubeにアップロードする

- YouTube Uploader for CASIOを使用する前にYouTubeのWebサイト（http://www.youtube.com/）でユーザー会員登録をしてください。
- 著作権（著作隣接権を含みます）により保護されているビデオは、ご自身が権利を有しているか、関係する権利者から許可を得ている場合を除いてアップロードしないでください。
- “YouTube”のシーンの撮影で、1回の撮影で保存できるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大2048MBまたは、撮影時間が15分までです。
- アップロードできるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大2048MBです。

1. ベストショットのシーンで“YouTube”のシーンを選ぶ（61ページ）

---

2. 【●】（ムービー）を押して動画を撮影する

3. あらかじめパソコンをインターネットに接続しておく

---

4. カメラをパソコンに接続する(151ページ)

---

5. カメラの電源を入れる

YouTube Uploader for CASIOが自動的に起動します。

- 初めて起動したときは、YouTubeのユーザーID、パスワード、お使いのネットワークの環境を設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

---

6. 画面左側に動画ファイルをアップロードするのに必要なタイトル、カテゴリー等が表示されるので、動画ファイルをアップロードする際に必要な情報を入力する

---

7. 画面右側に動画ファイルのリストが表示されるので、アップロードしたい動画ファイルのチェックボックスにチェックを入れる

---

8. すべての準備が整ったら、[アップロード]ボタンをクリックする

動画ファイルがWebサイトに転送されます。

- ファイル転送が終わったら、[終了]ボタンをクリックし、アプリケーションを終了してください。

パソコンに保存した画像をカメラに戻す

パソコンに取り込んだ画像をもう一度カメラへ戻すには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Transportをパソコンにインストールします。

■ Photo Transportをインストールする

1. CD-ROMのメニュー画面で“Photo Transport”を選ぶ

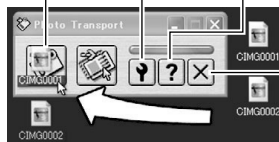
2. “お読みください”をクリックしてインストールの条件や動作環境を読んだ後、インストールする

■ 画像をカメラに転送する

1. カメラをパソコンに接続する(151ページ)

2. “スタート”→“すべてのプログラム”→“CASIO”→“Photo Transport”の順でクリックする

Photo Transportが起動します。

3. 転送したい画像ファイルを[転送ボタン]にドラッグアンドドロップする

4. 画面の指示にしたがって操作する

画像ファイルがカメラに転送されます。

- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

転送するデータについて

- 転送できる画像は下記の拡張子の画像データです。
  .jpg、.jpeg、.jpe、.bmp（.bmpはJPEG画像に変換されて転送されます）
- 画像によっては一部転送できない場合があります。
- 動画は転送できません。

■ パソコンの画面をカメラに転送する

1. カメラをパソコンに接続する（151ページ）

2. "スタート"→"すべてのプログラム"→"CASIO"→"Photo Transport"の順でクリックする

Photo Transportが起動します。

3. 転送したい画面を表示する

4. [キャプチャーボタン]をクリックする

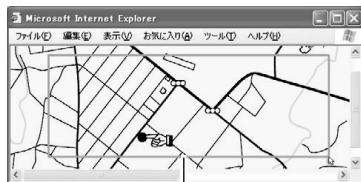
[キャプチャーボタン]

5. 転送したい範囲を囲む

転送したい部分の左上に"↖"(矢印)を移動してマウスの左ボタンを押したままにし、そのままマウスを右下へずらします。

6. 画面の指示にしたがって操作する

囲んだ範囲の画像がカメラに転送されます。

- キャプチャーした画像はJPEG画像に変換されて転送されます。
- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

転送される範囲

■ 設定／ヘルプについて

設定内容の変更は[設定ボタン]をクリックして変更します。設定内容、操作方法やトラブルシューティングについては、Photo Transportの[ヘルプボタン]をクリックしてヘルプをご覧ください。

カメラ、パソコン、携帯電話でダイナミックフォトを楽しむ

ダイナミックフォトで使用できる多数の「動くキャラクター」素材を、パソコンからカメラへ転送することができます。また、ダイナミックフォトを動画へ変換したり、携帯電話へ送ったりして楽しむこともできます。この機能を利用するには、付属のCD-ROMに収録されているDynamic Photo Managerをパソコンにインストールします。

Dynamic Photo Managerの詳細については、製品に同梱されている別紙をご覧ください。

画像から撮影した場所を表示する

"緯度経度記録"を"入"にして撮影した画像により、地図上に撮影した場所を示すことができます。
この機能を利用するには、付属のCD-ROMからPicasa、Google EarthのWebサイトへ行き、WebサイトからPicasa、Google Earthをインストールしてください。
Picasa、Google Earthの詳細については、Web上のPicasa、Google EarthサイトのHELPをご参照ください。

取扱説明書(PDFファイル)を読む

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

- パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、AutoMenu.exeをダブルクリックしてください。

---

2. "取扱説明書"をクリックして選び、お読みになりたいアプリケーションソフトの名前をクリックする

重要

- 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、"ソフトのインストール"でAdobe Readerをインストールしてください。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録をすることができます。

- 下記のアドレスからユーザー登録ができます。
  http://casio.jp/reg/dc/

ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としています。付属ソフトウェアについては、ユーザー登録をしなくてもインストールや使用は可能です。
下記の方法でも登録できます。

1. CD-ROMのメニュー画面で"オンラインユーザ登録"を選んだ後、画面の指示にしたがって操作する

---

2. ユーザー登録が終了したら、インターネットの接続を終了する

Macintoshを利用する

Mac OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	OS 9	インストールする必要はありません。	165
	OS X		
パソコンに自動的に画像を保存／画像の管理	OS 9	市販のソフトをご利用ください。	168
	OS X	一部のMac製品本体にバンドルされているiPhotoが利用できます。	
動画の再生	OS 9	再生できません。	169
	OS X	OS X 10.4.11以降で、QuickTime 7以降がインストールされていれば再生できます。	169

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

重要

- Mac OS 8.6以前、またはMac OS Xの10.0ではご使用できません。Mac OS 9、X（10.1、10.2、10.3、10.4、10.5、10.6）のみで使用できます（OS標準のUSBドライバを使用）。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

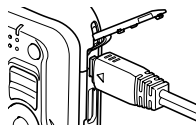
1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す

4. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- USBケーブルからは電源は供給されません。電池残量が十分な電池をカメラに入れてから接続してください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。
- USBケーブルをUSBハブなどを経由してパソコンと接続すると、正常に認識しない場合があります。USBケーブルはパソコンのUSB端子に直接接続してください。

5. カメラの電源を入れる

カメラの後面ランプが緑色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。

6. 表示されたドライブをダブルクリックする

7. "DCIM"フォルダをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする

8. コピーが終了したらドライブを"取り出し"または"ゴミ箱"へドラッグアンドドロップする

9. カメラの【ON/OFF】（電源）を押して電源を切り、緑の後面ランプが消灯したのを確認してから、カメラをパソコンからはずす

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

---

2. “DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

---

3. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

---

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」（173ページ）を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

パソコンに自動的に画像を保存する／画像を管理する

Mac OS Xをお使いの場合は、一部のMac製品本体にバンドルされているiPhotoを使って画像ファイルの管理ができます（Mac OS 9等をお使いの場合は、市販のソフトをご利用ください）。

動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS　：画質HDの場合：Mac OS X 10.4.11以降
画質STDの場合：Mac OS X 10.3.9以降

必要なソフトウェア：QuickTime 7以降

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。
- OS 9では動画ファイルは再生できません。

■ 動画再生時のご注意

お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。

– 最新のQuickTimeにバージョンアップする
– 実行中の他のソフトウェアを終了する

なお、Macintoshで正しく動作しない場合でも、付属のAVケーブルを使って映像入力端子を持ったテレビやMacintoshで再生することができます。

重要

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録をすることができます。

- 下記のアドレスからユーザー登録ができます。
  http://casio.jp/reg/dc/

ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としています。

無線LAN内蔵SDメモリーカード（Eye-Fiカード）を使って画像を転送する（Eye-Fi通信）

市販のEye-Fiカードをカメラに入れて撮影すると、無線LAN経由で画像データを自動的にパソコンなどに転送することができます。

1. Eye-Fiカードに付属の取扱説明書にしたがって、Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先などを設定する

---

2. 設定の終了したEye-Fiカードをカメラに入れ、撮影する

撮影した画像が、無線LANにより自動的にパソコンなどに送信されます。

- 具体的な使用方法は、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書を参照ください。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内に書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコン上にコピーしてからフォーマットしてください。

重要

- 撮影した画像は無線LANにより転送されるので、航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、Eye-Fiカードを使用しないか、Eye-Fiカードによる通信を切ってください(175ページ)。
- Eye-Fiカードをカメラに入れると、画面上にEye-Fiアイコン“Eye-Fi”が表示されます。

半透明	Eye-Fi	アクセスポイントが見つからない。 または、転送すべき画像データがない。
不透明	Eye-Fi	画像転送中
点滅	Eye-Fi	アクセスポイント検索中

- 地図モードのときは、画面上にEye-Fiアイコン“Eye-Fi”は表示されません。
- 画像データ転送中は、画面上に転送アイコン“>>>>>”が表示されます。
- 画像転送中、オートパワーオフ機能(183ページ)は作動しません。
- 画像転送中に電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されます。その場合は、メッセージに対応した処置をしてください(213ページ)。
- 多数の画像データを転送すると、転送に時間がかかる場合があります。
- Eye-Fiカードの種類、設定によっては、画像データ転送後、Eye-Fiカードに保存された画像データは消去されてしまいます。
- Eye-Fiカードで動画を撮影すると、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。
- カメラの設定や電池の電圧、環境によって、Eye-Fiカードが正しく通信できない場合があります。

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダ構造の詳細は、「メモリー内のフォルダ構造」(173ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	"CIMG0001"から"CIMG9999"までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録したファイル名: CIMG0026.JPG 0026:連番(4桁) JPG:拡張子
フォルダ	"100CASIO"から"999CASIO"までで、最大900のフォルダが作成されます。 • ベストショットにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する"YouTube"のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100YOUTB」となります。	連番100のフォルダ名: 100CASIO 100:連番(3桁)

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、14ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

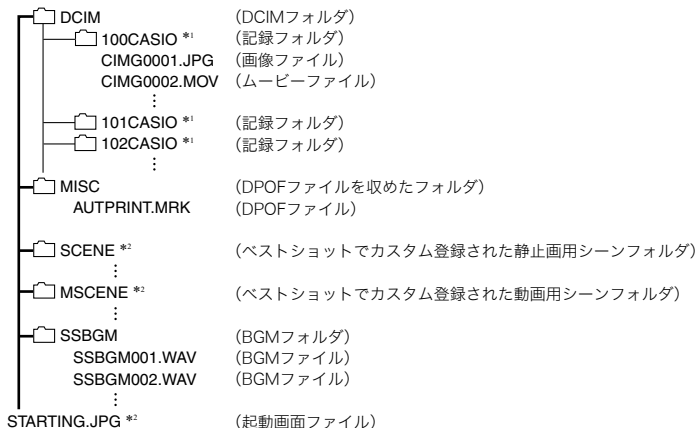
メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像は、DCF(Design rule for Camera File system)規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見ることができます。
- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のプリンターで印刷することができます。
- DCF規格対応の他社のカメラの画像を本機で見ることができます。

ただし、上記項目の動作はすべて保証するものではありません。

■ メモリー内のフォルダ構造

*1 ベストショットにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、記録フォルダ名は「100YOUTB」となります。
*2 内蔵メモリー内にのみ作成されるフォルダ、ファイルです。

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻しておいてください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が173ページのフォルダ構造の通りである必要があります。
- メモリーカードはPCカードアダプターやメモリーカードリーダー／ライターで直接パソコンに読み込むことができます。

その他の設定について

ここでは撮影モード、再生モード、および地図モードの、どのモードからでも操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作については、69ページをご覧ください。

液晶モニターの明るさを変える(液晶設定)

操作手順:【MENU】→設定タブ→液晶設定

液晶モニターの明るさを切り替えることができます。

オート	周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動的に液晶が明るくなります。
+2	"+1"に比べてさらに液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
+1	屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。"0"に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。
0	屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。
−1	周囲へのマナーに配慮したり、暗い場所で使用する場合の設定です。

Eye-Fiカードによる通信を切る(Eye-Fi通信)

操作手順:【MENU】→設定タブ→Eye-Fi通信

Eye-Fiカードを使った通信(170ページ)を完全に切りたいときは"切"にしてください。

GPS機能を設定する（GPS）

操作手順：【MENU】→設定タブ→GPS

詳しくは110ページをご覧ください。

撮影した場所の位置情報を、画像に記録する（緯度経度記録）

操作手順：【MENU】→設定タブ→緯度経度記録

詳しくは111ページをご覧ください。

画像縦横方向を感知し自動で回転して表示する（縦横自動回転）

操作手順：【MENU】→設定タブ→縦横自動回転

詳しくは130ページをご覧ください。

カメラの音を設定する（操作音）

操作手順：【MENU】→設定タブ→操作音

<table>
<tr><td>起動音</td><td rowspan="4">音色を設定します。
サウンド1～5：内蔵されたサンプル音が鳴ります。
切：音は鳴りません。</td></tr>
<tr><td>ハーフシャッター</td></tr>
<tr><td>シャッター</td></tr>
<tr><td>操作音</td></tr>
<tr><td>操作音</td><td>操作音の音量を設定します。ビデオ出力時（91ページ）の音量にも反映されます。</td></tr>
<tr><td>再生音</td><td>動画の音量を設定します。ビデオ出力時（91ページ）の音量には反映されません。</td></tr>
</table>

- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

撮影した静止画を起動画面に表示させる（起動画面）

操作手順：【MENU】→設定タブ→起動画面

起動画面にしたい静止画を表示させて“入”を選びます。

- 【▶】（再生）を押して電源を入れた場合は、起動画面は表示されません。
- 起動画面には、静止画の他にカメラに内蔵されている起動画面用の専用画像が設定できます。
- 登録した起動画面は、内蔵メモリーをフォーマット（187ページ）すると消去されます。

画像の連番のカウント方法を切り替える(ファイルNo.)

操作手順:【MENU】→設定タブ→ファイルNo.

撮影時に画像に付く連番(172ページ)のカウント方法を切り替えます。

メモリする	今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名が付きます。
メモリしない	ファイルをすべて消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名を付けます。

画像保存用のフォルダを作成する(フォルダ作成)

操作手順:【MENU】→設定タブ→フォルダ作成

フォルダ作成	新しい番号のフォルダを作ります(172ページ)。次回撮影時から、このフォルダにファイルが保存されます。
キャンセル	フォルダを作成しません。

• ベストショットの"YouTube"のシーンで撮影したファイルは専用フォルダに保存されるため、この操作で作成したフォルダにファイルは保存されません。

海外旅行先での時刻を設定する(ワールドタイム)

操作手順:【MENU】→設定タブ→ワールドタイム

自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

1. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押す

- 通常の時刻表示の地域・都市を変更するときは“自宅”を選びます。

2. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押す

- “訪問先”の設定でサマータイムを設定するときは、【▲】【▼】で“サマータイム”を選び、“入”に設定します(サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです)。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で地域を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で都市を選び、【SET】を押す

5. 【SET】を押す

重要

- ワールドタイムを設定する前に、自宅の都市が自分の住んでいる地域になっているかどうかを確認してください。自分の住んでいる地域になっていない場合は、手順1で“自宅”を選んで自宅の都市を変更し、続けて日時を設定し直してください(181ページ)。
- GPS衛星から受信した時刻情報データを利用して、ワールドタイムの時刻を自動的に現地時間に修正することができます。詳しくは、「カメラの時刻を自動修正する(時刻自動修正)」(131ページ)をご覧ください。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

操作手順:【MENU】→設定タブ→タイムスタンプ

撮影時に画像の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

例)2012年7月10日 午後1時25分

日付	2012/7/10
日付+時刻	2012/7/10 1:25pm
切	日付／時刻は写し込まれません。

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- タイムスタンプ機能を使用しなくてもDPOF機能や印刷用ソフトで、日付や時刻を入れてプリントすることができます(145ページ)。

- ベストショット撮影の一部では、タイムスタンプは無効となります。

撮影した場所の地名を、画像に写し込む(地名スタンプ)

操作手順:【MENU】→設定タブ→地名スタンプ

詳しくは115ページをご覧ください。

カメラの時刻を自動修正する(時刻自動修正)

操作手順:【MENU】→設定タブ→時刻自動修正

詳しくは131ページをご覧ください。

カメラの日時を設定し直す（日時設定）

操作手順：【MENU】→設定タブ→日時設定

日時を変更した後は【SET】を押して修正結果を確定させます。

【▲】【▼】	カーソル（選択枠）の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル（選択枠）を移動します。
【BS】	12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

- 入力できる日付は、2001年〜2049年です。
- 日時を設定する前にワールドタイムの自宅の設定（179ページ）を自分の住んでいる地域にしないと、ワールドタイムの日時が正しく表示されません。

日付の表示の並びを変える（表示スタイル）

操作手順：【MENU】→設定タブ→表示スタイル

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

例）2012年7月10日

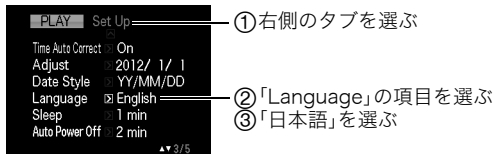
年／月／日	12/7/10
日／月／年	10/7/12
月／日／年	7/10/12

- 操作パネル上の日付の表示（38ページ）も、下記のように切り替えることができます。
  "年／月／日"、"月／日／年"を選んだ場合：月／日の順
  "日／月／年"を選んだ場合：日／月の順

表示言語を切り替える(Language)

操作手順:【MENU】→設定タブ→Language

画面のメッセージの言語を設定します。

■ 画面が外国語表示になってしまったとき

- 地図上に表示される地名(国名／ランドマーク名)や都市名、おすすめ撮影スポットの名称、撮影時に撮影場所の名称候補として表示される地名(国名／都市名／ランドマーク名)は、ここで設定した言語によって表示されない場合があります。地名、名称は地図データ、おすすめ撮影スポットデータ、および地名データとして収録された言語で表示されます。

電池の消耗を抑える(スリープ)

操作手順:【MENU】→設定タブ→スリープ

一定時間操作しないと液晶モニターの表示を消します。何かボタンを押すと、表示が戻ります。

設定できる値:30秒／1分／2分／切(切を選ぶと、スリープ機能が作動しません)

- 以下の状態のときは、スリープ機能は働きません。
  - 再生モード
  - 地図モード
  - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
  - スライドショー中
  - “[⁺]AFトラッキング”追尾中
  - 動画撮影･再生中
- スリープ機能とオートパワーオフ機能の設定が同じ時間の場合、オートパワーオフ機能が優先されます。

電池の消耗を抑える(オートパワーオフ)

操作手順:【MENU】→設定タブ→オートパワーオフ

電池消耗を抑えるため、一定時間操作しないと電源が切れます。

設定できる値:1分／2分／5分(再生モードでは5分に固定されます)

- 以下の状態のときは、オートパワーオフ機能は働きません。
  - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
  - スライドショー中
  - “[⁺]AFトラッキング”追尾中
  - 動画撮影･再生中

【📷】、【▶】、および【🌐】の動作を設定する(REC／PLAY)

操作手順：【MENU】→設定タブ→REC／PLAY

パワーオン	【📷】(撮影)、【▶】(再生)、または【🌐】(地図)を押すと、電源が入ります。
パワーオン／オフ	【📷】(撮影)や【▶】(再生)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	【📷】(撮影)、【▶】(再生)、または【🌐】(地図)を押しても、電源は入りません。

- "パワーオン／オフ"に設定しているときは、撮影モードで【📷】(撮影)を押した場合と再生モードで【▶】(再生)を押した場合に電源が切れます。
- "パワーオン／オフ"に設定しているとき、【🌐】(地図)を押して電源を入れることはできますが、電源を切ることはできません。
- テレビに画像を映し出す場合は、"切"以外に設定する必要があります。

画像の消去操作ができないようにする(🗑禁止)

操作手順：【MENU】→設定タブ→🗑禁止

【▼】(🗑⚡)を押しても、画面の消去操作に入らないようにすることができます。
誤操作などにより、誤って画像を消去したくないときは、"入"にしてください。

USBの通信方法を切り替える(USB)

操作手順：【MENU】→設定タブ→USB

パソコンやプリンターなどの外部機器と接続するときの、USB通信の方法を切り替えることができます。

Mass Storage	パソコンを接続する場合に選びます(151、166ページ)。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時はこちらを選んでください。
PTP (PictBridge)	PictBridge対応のプリンターを接続する場合に選びます(140ページ)。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。

画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する(ビデオ出力)

操作手順:【MENU】→設定タブ→ビデオ出力

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比(横縦比)を4:3または16:9のいずれかで出力できます。

NTSC	日本のほか、アメリカなどでも使用されています。
PAL	ヨーロッパなどで使用されています。
4:3	通常の画面比率のテレビ用
16:9	ワイド画面のテレビ用

- お使いのテレビ画面のアスペクト比(4:3または16:9)に合わせて設定してください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないと正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。

HDMI端子の出力方法を変える(HDMI出力)

操作手順:【MENU】→設定タブ→HDMI出力

詳しくは93ページをご覧ください。

メモリーをフォーマットする（フォーマット）

操作手順：【MENU】→設定タブ→フォーマット

カメラにメモリーカードが入っている場合はメモリーカードを、メモリーカードが入っていない場合は内蔵メモリーをフォーマットできます。

- フォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去され、元に戻すことはできません。本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 内蔵メモリーをフォーマットした場合、次のデータも同時に消去されます。
  - プロテクトされた画像
  - ベストショットでカスタム登録した内容
  - 起動画面に設定した画像
  - 撮影時に取得した位置情報（緯度・経度・カメラを向けた方向）
  - カメラ内部に保存されている測位ログデータ
- メモリーカードをフォーマットした場合、次のデータも同時に消去されます。
  - プロテクトされた画像
- フォーマットするときは、電池残量の十分な電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

各種設定を購入直後の設定に戻す（リセット）

操作手順：【MENU】→設定タブ→リセット

購入直後の設定（初期値）については、201ページを参照ください。

下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません。

ワールドタイムの詳細設定、日時設定、表示スタイル、Language、ビデオ出力

液晶モニターの表示内容を切り替える

【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。

情報表示あり	設定内容などの情報が表示されます。
情報表示＋ ヒストグラムあり	設定内容などの情報に加え、ヒストグラム(189ページ)が画面の左側に表示されます。 ヒストグラム
情報表示なし	設定内容などの情報を表示しません。

露出を確認する(ヒストグラム)

液晶モニター上にヒストグラムを表示させることで、露出をチェックしながら撮影することができます。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。

ヒストグラム

参考

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムでチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム（輝度成分分布表）とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正（EVシフト）すると、ヒストグラムを左右に移動させることができます。グラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR（赤）、G（緑）、B（青）の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されるので、色ごとのオーバー・アンダー状況が把握することができます。

典型的なヒストグラムの例		
全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。	全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。	全体的に適切な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。

付録

使用上のご注意

■ データエラーのご注意

本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

– カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
– 電源を切ったときに後面ランプが緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
– 通信中にUSBケーブルがはずれた
– 消耗した電池を使用し続けた
– その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(213ページ)。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

- 使用可能温度範囲:0〜40℃
- 使用可能湿度範囲:10〜85%(結露しないこと)
- 次のような場所には置かないでください。
  – 直射日光の当たる場所、湿気やホコリ、砂の多い場所
  – 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  – 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付き（結露）、故障の原因となります。結露を防ぐには、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に十分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性（歪曲収差）により、撮影した画像の直線が歪む（曲がる）場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面やフラッシュ面には触れないでください。レンズ面やフラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ 充電式電池の取り扱いについて（リサイクルのお願い）

Li-ion 00

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

<最寄りのリサイクル協力店へ>

詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.jbrc.com/

■ 使用済み充電式電池の取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

■ 充電器ご使用時のご注意

- ●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●電源ケーブルのコードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。
- ●電源ケーブルのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●濡れた手で電源ケーブルのコードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●万一、電源ケーブルのコードが傷んだら（芯線の露出・断線など）、「修理に関するお問い合わせ窓口（229ページ）」またはお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- 充電中、充電器は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、電源ケーブルをコンセントからはずしてください。
- 充電器の上に毛布などがかぶさらないようにしてください。火災の原因となります。

■ その他の注意

使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

■ 著作権について

カメラで記録した静止画や動画は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。ただし、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず、権利者の許可なく、ネット上のホームページや共有サイトなどに掲載したり、第三者に配布したりすることも著作権法や国際条約で固く禁じられています。たとえば、録画したTV番組やライブコンサートの映像、音楽ビデオなど自分で撮影や録画したものであっても、動画共有サイトなどに掲載したり配付したりすると、他者の権利を侵害する恐れがあります。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

　この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows Media、Windows Vista、Windows 7、およびDirectXは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、およびiPhotoは、Apple Inc.の商標です。
- YouTube、YouTubeロゴ、および“Broadcast Yourself”は、YouTube, LLC社の商標または登録商標です。
- Google、Google EarthおよびPicasaは、米国Google Inc.の登録商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。

- EXILIM、Hybrid-GPS、Photo Transport、ダイナミックフォト、Dynamic Photo、Dynamic Photo Manager、およびYouTube Uploader for CASIOは、カシオ計算機(株)の登録商標または商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に付属するソフトウェアを、無断で営業目的で複製(コピー)したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

本製品のYouTubeアップロード機能は、YouTube, LLC社からのライセンスの元に搭載されています。ただし、本製品がYouTubeアップロード機能を備えることが、YouTube, LLC社が本製品を保証または推薦することを意味するわけではありません。

電源について

充電について

【CHARGE】ランプが赤色に点滅したときは

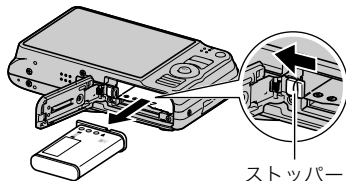
- 周辺温度または充電器の温度が高温または低温状態で、充電できないことを示しています。そのまま充電可能温度範囲で放置してください。充電可能な温度になると充電が始まり、【CHARGE】ランプが赤色に点灯します。
- 充電器と電池の接点部の汚れを調べてください。汚れていたら、乾いた布で拭いてください。

上記の処置をしてもエラーが起こる場合は、電池の不良が考えられます。「修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)」にお問い合わせください。

電池を交換する

1. 電池カバーを開き、電池を取り出す

液晶モニターを上に向けた状態で、ストッパーを矢印方向へずらし、出てきた電池を引き抜きます。

2. 新しい電池を入れる

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、十分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 5℃〜35℃の温度範囲で充電してください。範囲外の温度では、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。
- 電池の外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。なお、古い電池は使用せずに充電式電池リサイクル協力店へお持ちください(191ページ)。

■ 保管上のご注意

- 充電された状態で長期間保管すると電池の特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 使用しないときは必ず電池をカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、カメラが壊れたりします。
- 乾燥した涼しい場所（20℃以下）で保管してください。
- 過放電を防止するために、充電池は半年に1回くらいの割合で一度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

海外で使うときは

■ 使用上のご注意

- 付属の充電器はAC100V〜240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国・地域によって電源ケーブルのプラグ形状等が異なるため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- 充電器の電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

■ 予備の電池について

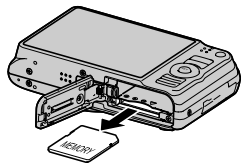
- 旅先で電池が切れて撮影ができなくなってしまうことを防ぐため、フルに充電した予備の電池（NP-90）をお持ちになることをおすすめします。
- 電池はお買い求めの販売店またはカシオ・オンラインショッピングサイト（e-カシオ）でご購入ください。（e-カシオ： http://www.e-casio.co.jp/）

メモリーカードについて

使用できるメモリーカード、メモリーカードの入れ方については23ページをご覧ください。

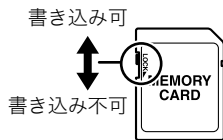
メモリーカードを交換する

メモリーカードを押すとカードが少し出てきますので、引き抜いて別のメモリーカードを入れます。

- 後面ランプが緑色に点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。

■ メモリーカードについて

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。

書き込み可
LOCK
MEMORY CARD
書き込み不可

- 画像を再生したときに異常が発生した場合などは、フォーマット操作（187ページ）で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- メモリーカードは撮影／消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- 静電気、電気的ノイズ等により、記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア（CD-R、CD-RW、ハードディスクなど）にバックアップして控えをとることをおすすめします。

■ メモリーカードのご使用上の注意

- メモリーカードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位(HD、STD)の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、"[icon]"と"●REC"が点滅します。メモリーカードは、最大転送速度が10MB／秒以上のメモリーカードの使用をおすすめします。
- 動作確認済みのメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト内のお客様サポートメニューの「その他サポート情報」にある「他社製SDメモリーカード／マルチメディアカード動作確認一覧」をご覧ください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄／譲渡するときのご注意

本機の「フォーマット」や「消去」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。

- 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
- 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能(187ページ)で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。

同梱ソフト（付属CD-ROM）使用時の動作環境について

使用するソフトによってパソコンに必要な動作環境が異なりますので、必ず確認してください。また、各ソフトの動作環境はアプリケーションを動作させるために必要な最低限の性能です。取り扱う画像サイズや枚数によって、これ以上の性能を必要とします。

●Windows用

YouTube Uploader for CASIO

OS：Windows 7／Windows Vista／Windows XP（SP2／SP3）／Windows 2000（SP4）

- OSが正常に動作すること
- YouTubeサイトにより動画が再生できること
- YouTubeサイトに動画がアップロードできること

Photo Transport 1.0

OS　　　：Windows 7／Windows Vista／Windows XP／Windows 2000
メモリー：64MB以上
HDD　　：約2MB以上

Dynamic Photo Manager

OS　　　：Windows 7／Windows Vista（SP1）／Windows XP（SP3）
メモリー：512MB以上
HDD　　：約10MB以上
ブラウザ：Microsoft Internet Explorer 6.0以上もしくは同等の機能のブラウザソフト
その他　：QuickTime7.6以上およびWindows Media Player 10以上がインストールされていること。
パソコンが常時インターネット接続（1Mbps以上）されていること。

Picasa

OS：Windows 7／Windows Vista／Windows XP

Google Earth
OS：Windows Vista／Windows XP／Windows 2000

Adobe Reader 9
OS　　　：Windows 7／Windows Vista／Windows XP（SP2/SP3）／
　　　　　Windows 2000（SP4）
メモリー：128MB以上（256MBを推奨）
HDD　　：約335MB以上

各ソフトの詳しい動作環境については、付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）内の「お読みください」ファイルを参照して、ご確認ください。

リセット操作でリセットされる内容

【MENU】を押したときに表示されるメニューで、リセット操作(187ページ)でリセットされる(初期値になる)内容の一覧表です。
ー:この記号の設定項目はリセット操作には影響がありません。

重要

- オート撮影モード(28ページ)をプレミアムオートに設定すると、一部のメニューは使用できなくなります。

■ 撮影モード

"撮影設定"タブ

フォーカス方式	AF(オートフォーカス)
セルフタイマー	切
顔検出	切
コンティニュアスAF	切
手ブレ補正	オート
AFエリア	スポット
AF補助光	入
フォーカス枠	[ ]
デジタルズーム	入
グリッド表示	切
撮影レビュー	入
アイコンガイド	入

モードメモリ	BSベストショット:切 メイクアップ:切 フラッシュ:入 フォーカス方式:切 ホワイトバランス:切 ISO感度:切 AFエリア:入 測光方式:切 セルフタイマー:切 フラッシュ光量:切 超解像高画質:入 超解像ズーム:入 デジタルズーム:入 MF位置:切 ズーム位置:切

“画質設定”タブ

超解像高画質	切
超解像ズーム	入
サイズ	14M(4320×3240)
画質(静止画)	標準-N
画質(動画)	HD
メイクアップ	切
EVシフト	0.0
ホワイトバランス	オート

ISO感度	オート
測光方式	マルチ
ライティング	入
カラーフィルター	切
シャープネス	0
彩度	0
コントラスト	0
フラッシュ光量	0

“設定”タブ

液晶設定	オート
Eye-Fi通信	入
GPS	切
緯度経度記録	入
縦横自動回転	入
操作音	起動音：サウンド1 ハーフシャッター：サウンド1 シャッター：サウンド1 操作音：サウンド1 操作音：■■■□□□□ 再生音：■■■□□□□
起動画面	切
ファイルNo.	メモリする
フォルダ作成	ー
ワールドタイム	自宅
タイムスタンプ	切

地名スタンプ	切
時刻自動修正	切
日時設定	ー
表示スタイル	ー
Language	ー
スリープ	1分
オートパワーオフ	2分
REC／PLAY	パワーオン
禁止	切
USB	Mass Storage
ビデオ出力	ー
HDMI出力	オート
フォーマット	ー
リセット	ー

■ 再生モード

“再生機能”タブ

スライドショー	表示画像:全画像 時間:30分 間隔:3秒 エフェクト:パターン1
ダイナミックフォト	ー
ムービーへ変換	ー
モーションプリント	作成
ムービーカット	ー
ライティング	ー
ホワイトバランス	ー

明るさ編集	0
プリント設定(DPOF)	ー
プロテクト	ー
日時編集	ー
地点情報消去	ー
回転表示	ー
リサイズ	ー
トリミング	ー
コピー	ー

“設定”タブ

- 再生モードの“設定”タブの内容は、撮影モードの“設定”タブと同じです。

■ 地図モード

“地図設定”タブ

ログの保持	入
ログの表示	入
ログの表示期間	1日

カーソル移動	入
方位センサー補正	キャンセル
位置情報の更新	キャンセル

“設定”タブ

- 地図モードの“設定”タブの内容は、撮影モードの“設定”タブと同じです。

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

現象	考えられる原因と対処
電源について	
電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない(20ページ)。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(19ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の寿命です。別売の当社のリチウムイオン充電池(NP-90)をお買い求めください。
電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた可能性があります(183ページ)。再度電源を入れ直してください。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(19ページ)。 3) カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
電源が切れない。ボタンを押しても、カメラが動作しない。	カメラから電池をいったん取り出し、再度入れ直してください。
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	1) 再生モードになっている場合は、【📷】(撮影)を押して撮影モードにしてください。 2) フラッシュの充電中は、フラッシュの充電が終わるまで待ってください。 3) "メモリがいっぱいです"と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。

現象	考えられる原因と対処
オートフォーカスなのにピントが合わない。	1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) ピントの合いにくい被写体の可能性があります(37ページ)。マニュアルフォーカスに切り替えて手動でピントを合わせてください(44ページ)。 4) 手ブレしている可能性がありますので、手ブレ補正の撮影状態に設定してください(72ページ)。または、三脚を使用してください。 5) シャッターを半押しせずに撮影したとき、ピントが合わない場合があります。シャッターの半押しを確実に行ってピントを合わせてください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。
フラッシュが発光しない。	1) フラッシュの発光方法が"⊘"(発光禁止)になっている場合は、発光方法を他の方法に切り替えてください(42ページ)。 2) 電池が消耗している場合は、電池を充電してください(19ページ)。 3) ベストショットでフラッシュが"⊘"(発光禁止)のシーンを選んでいる場合は、必要に応じてフラッシュの発光方法を切り替えるか(42ページ)、撮影したいシーンを選び直して(61ページ)ください。
液晶モニター上に"⊘"(発光禁止)が赤く点滅し、フラッシュが発光しない。	フラッシュが故障している恐れがありますので、「修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。なお、この状態でフラッシュは発光できませんが、撮影することはできます。
セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(19ページ)。
液晶モニターに表示される画像のピントがあまい。	1) マニュアルフォーカスでピント合わせがずれています。ピントを正しく合わせてください(45ページ)。 2) 被写体が風景や人物なのに"🌷"(マクロ)になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスにしてください(44ページ)。 3) 接写しているのに、オートフォーカスや"∞"(無限遠)になっています。接写撮影をする場合は"🌷"(マクロ)にしてください(44ページ)。

現象	考えられる原因と対処
液晶モニターに表示される画面に縦線が入る。	極端に明るい被写体を撮影すると、液晶モニター上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画にはそのまま記録されますので、ご注意ください。
画像にノイズが入る。	1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 暗い場所でフラッシュを“ ”(発光禁止)にして撮影すると、ノイズが発生し、多少ざらついた感じになることがあります。その場合は、フラッシュの発光方法を切り替えるか(42ページ)、ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 3) 静止画撮影で高い値のISO感度に設定したり、ライティング機能を使うと、ノイズが増えることがあります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。
撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が“ ”になったら、速やかに電池を充電してください(21ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(42ページ)。または、EVシフトを+側に調整してください(53ページ)。
夜景がきれいに撮影できない。	ベストショット(61ページ)のシーンを下記のように設定して撮影してください。 • 夜景だけ撮影したいとき→「夜景を写します」 • 夜景と人物を撮影したとき→「夜景と人物を写します」
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(42ページ)。または、EVシフトを+側に調整してください(53ページ)。

現象	考えられる原因と対処
デジタルズーム(HDズーム／超解像ズーム含む)が効かない。ズームバーが10.0倍までしか表示されない。	デジタルズームの設定が“切”になっている可能性があります。設定を“入”にしてください(74ページ)。
動画撮影中に画像がぼける。	1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください(191ページ)。
再生について	
再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
画像編集(リサイズ、トリミング、日時編集、回転)ができない。	次の画像は編集できません。 • モーションプリント機能で作成した画像 • 動画 • 他のカメラで撮影した画像
消去について	
ファイルを消去することができない。	1) ファイルにプロテクトがかかっている可能性があります。プロテクトを解除してください(104ページ)。 2) “🗑禁止”の設定が“入”になっている可能性があります。設定を“切”にしてください(185ページ)。

現象	考えられる原因と対処
ハイブリッドGPS機能について	
GPSが受信できない。	1) "GPS"の設定が"切"になっている可能性があります。設定を"入"にしてください(110ページ)。測位に数分かかる場合があります。 2) 屋内やビルの近くなど、撮影する環境によってはGPS衛星からの電波を正しく受信できない場合があります。そのような場合は、野外の空の開けた場所でGPSアンテナを上空に向け、カメラをしばらく静止した状態で使用してください。 3) 電源を切ったカメラを静止した状態にすると、GPS電波の受信動作が停止状態となります。その場合は、本機の電源を入れてください。 4) 近くに強い電波を送信したり、受信したりする機器が取り付けられていると、GPS感度が悪くなることがあります。その場合は、本機をその機器から離してください。 5) ガラスの一部にはGPSの電波を通さないものがあります。GPS衛星と本機の間に、そのようなガラスがある場合は、ガラスのない状態にしてください。
測位に時間がかかる。	1) "GPS"の設定を"切"から"入"へ設定した直後や、初めて使う場合、しばらく使わなかった場合は、数分かかる場合があります。 2) 通常、十数秒以内に測位できますが、GPS衛星の位置は変化するため、撮影する場所や環境によっては時間がかかる場合があります。 3) GPS衛星からの電波が受信しにくい環境では、測位に時間がかかる場合があります(116ページ)。
現在地がずれる。	1) GPS衛星による測位は、電波の状況により数百メートルの誤差が生じます。 2) GPS衛星からの電波を受信しにくい環境で、モーションセンサーに磁気の影響を与えるような場所でモーションセンサーによる測位を行ったときは、測位される場所が大きくずれる場合があります。 3) GPS衛星からの電波を受信しにくい環境が続き、モーションセンサーによる測位が長く続いている場合は、測位される場所が大きくずれる場合があります。

	現象	考えられる原因と対処
	方位情報の誤差が大きい。	1) 本機が磁気の影響を受けた可能性があります。方位センサーの精度を調整してください(128ページ)。または、本機に磁石や金属を近づけないでください。 2) 以下のようなときは、方位センサーによる方位測定ができない場合があります。 • "GPS"を"入"に設定した直後(110ページ) • 電池を入れ、電源を入れた直後
	撮影した場所と地名データが違う。	電源を入れた直後やGPS電波受信状態アイコン(112ページ)が"[アイコン](受信不可)"のとき、または現在地がずれるようなときは、現在の場所と本機に収録されている地名が大きく異なる場合があります。その場合は、"ーーー"(非表示)を選んでください(113ページ)。
	地名データが表示されない。	1) 付近にランドマークなどが存在しない可能性があります。 2) 本機の内蔵データに、そのエリア周辺の地名データが収録されていない可能性があります。その場合は、地名候補として"ーーー"(非表示)が表示されます(114ページ)。
その他		
	画面に表示される日時や記録したデータの日付が正しくない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(181ページ)。
	画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(182ページ)。
	パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクタ端子部を確認して、確実に接続してください。 2) USB通信の方法が正しく設定されていない可能性があります。USB通信の方法を接続する機器に合わせて正しく設定してください(151、166ページ)。 3) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。 4) USBケーブルをUSBハブなどを経由してパソコンと接続すると、正常に認識しない場合があります。USBケーブルはパソコンのUSB端子に直接接続してください。

現象	考えられる原因と対処
カメラの電源を入れると、時計設定画面が表示される。	1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(21、22ページ)。 2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(187ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに時計設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。 再度電源を入れても時計設定画面が表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
購入後、時計を設定したあと、すぐに電池を抜いたら、設定した時刻がリセットされた。	電池を入れ、時計を設定し直してください(22ページ)。その後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。 • 24時間以上、電池を入れているのに、電池の抜き差しで時刻がリセットされる場合は、カメラの設定保持機能が壊れている恐れがあります。この場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
電源を入れた直後、ボタン操作ができない。	メモリーカードの容量が大きい場合、電源を入れてからボタン操作ができるまでの時間が長くなります。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。撮影し直してください。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(187ページ)。 重要 • フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(187ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。 LOCKスイッチ LOCK MEMORY CARD
画像転送中です 中断して電源を切りますか?	Eye-Fiカードにより画像データを転送中に、電源を切ろうとしたときに表示されます(170ページ)。
この機能は使用できません	機能の組み合わせなどにより使用できない機能を使用した場合、操作の途中で表示されます。

このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
これ以上登録できません	ベストショットで「SCENE」フォルダの中にファイルが999シーンある状態でカスタム登録しようとした場合に表示されます(64ページ)。
設定したファイルが見つかりません	スライドショーの"表示画面"で設定した画像が見つからないときに表示されます。もう一度設定し直してください(96ページ)。
接続エラー	プリンター接続時に、カメラのUSB設定がプリンターのUSB接続方式と合っていない場合に表示されます(140ページ)。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
登録可能な画像がありません	ベストショットで登録できる画像がないときに表示されます。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(35ページ)。

プリントする画像がありませんDPOF設定してください	プリントする画像が指定されていないときに表示されます。DPOFの設定を行ってください(143ページ)。
プリントエラー	プリント中のエラー時に表示されます。 • プリンター電源オフ、 • プリンター本体のエラー、など
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。不要なファイルを消去してください(35ページ)。
もう一度、電源を入れ直してください	レンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物がないことを確認して、再度電源を入れてください。
用紙を補充してください	プリント時に、プリンターの用紙が切れている場合に表示されます。
レンズエラー	レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
レンズエラー2	手ブレ補正ユニットが故障している可能性があります。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
ALERT	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。

MAP ERROR	地図･地名･おすすめ撮影スポット関連のデータが壊れていますので､｢修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)｣またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので､｢修理に関するお問い合わせ窓口(229ページ)｣またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

撮影可能枚数／撮影可能時間

静止画

画像サイズ (pixels)	画質	画像ファイルサイズ	内蔵メモリー (約14.5MB※1)での撮影枚数	SDメモリーカード (1GB※2)での撮影枚数
14M (4320×3240)	高精細-F	9.31MB	1	103
	標　準-N	4.86MB	3	199
3:2 (4320×2880)	高精細-F	8.19MB	1	118
	標　準-N	4.29MB	3	225
16:9 (4320×2432)	高精細-F	6.78MB	2	142
	標　準-N	3.57MB	4	270
10M (3648×2736)	高精細-F	6.4MB	2	151
	標　準-N	3.38MB	4	286
6M (2816×2112)	高精細-F	3.48MB	4	277
	標　準-N	1.89MB	7	511
3M (2048×1536)	高精細-F	2.0MB	7	483
	標　準-N	1.25MB	11	773
VGA (640×480)	高精細-F	430KB	34	2249
	標　準-N	290KB	50	3335

動画

画質 (pixels)	1ファイル最大サイズ	転送レート (フレームレート)	内蔵メモリー (約14.5MB※1) での撮影時間	SDメモリーカード (1GB※2)での撮影時間	1分録画時のファイルサイズ
HD 1280×720	1回の撮影で最大4GBまで	10.9メガビット/秒 (30フレーム/秒)	11秒	12分10秒	81.8MB
STD 640×480		3.8メガビット/秒 (30フレーム/秒)	32秒	35分18秒	28.5MB

※1 内蔵メモリーをフォーマット後の容量
※2 SDメモリーカードはパナソニック(株)製のPRO HIGH SPEED SDメモリーカードの場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数は異なる場合があります。

- 撮影枚数/撮影時間は目安(おおよその数値)であり、画像の内容によって少なくなることがあります。
- ファイルサイズ/転送レートは目安(おおよその数値)であり、撮影対象によって変化することがあります。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
- "YouTube"のシーンの撮影で、1回の撮影で保存できるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大2048MBまたは、撮影時間が15分までです。

主な仕様／別売品

画像ファイル形式	静止画：JPEG（Exif Ver. 2.3／DCF2.0準拠／DPOF対応） 動画：MOV形式、H.264／AVC準拠、IMA-ADPCM音声（モノラル）
記録媒体	内蔵フラッシュメモリー（画像記録エリア：約14.5MB※） SD／SDHC／SDXC ※ 内蔵メモリーをフォーマット後の容量
記録画素数	静止画：14M（4320×3240）／3:2（4320×2880）／16:9（4320×2432）／10M（3648×2736）／6M（2816×2112）／3M（2048×1536）／VGA（640×480） 動画：HD（1280×720）、STD（640×480）
消去	1ファイル単位、複数ファイル単位、全ファイル一括消去可能（メモリープロテクト機能付き）
有効画素数	1410万画素
撮像素子	サイズ：1/2.3型正方画素CCD 総画素数：1448万画素
レンズ／焦点距離	F3.2（W）－5.7（T）/f＝4.3～43.0mm（35mmフィルム換算で24～240mm相当） 10群11枚（非球面レンズを含む）
ズーム	光学ズーム10倍、超解像ズーム併用時15倍 デジタルズーム4倍 HDズーム／デジタルズーム併用時最大159.4倍（VGAサイズ）
フォーカス	コントラスト検出方式オートフォーカス • フォーカス方式：オートフォーカス／マクロ／スーパーマクロ／無限遠／マニュアルフォーカス選択可能 • AFエリア：インテリジェント／スポット／マルチ／トラッキング選択可能、AF補助光付き
撮影距離範囲（静止画）（レンズ先端から）	オートフォーカス：約15cm～∞（W端） マクロ：約7cm～約50cm（W端から、1段ズーム時） スーパーマクロ：約7cm～約50cm 無限遠：∞ マニュアルフォーカス：約15cm～∞（W端） ※ 光学ズームにより撮影距離は変化します。
測光方式	撮像素子によるマルチパターン測光／中央重点測光／スポット測光
露出制御	プログラムAE
露出補正	－2.0EV～＋2.0EV（1/3EVステップ）

シャッター方式	CCD電子シャッター／ メカシャッター併用
シャッタースピード	静止画(オート):1/2秒～1/2000秒 静止画(夜景時):4秒～1/2000秒 ※ カメラの設定により異なる場合があります。
絞り	F3.2(W)～F7.5(W) (NDフィルター併用) ※ 光学ズームにより、絞り値は変化します。
ホワイトバランス	オート／太陽光／曇天／日陰／ N昼白色／D昼光色／電球／ マニュアルホワイトバランス
感度(標準出力感度、推奨露光指数)	静止画:オート／ISO80／ ISO100／ISO200／ISO400／ ISO800／ISO1600／ ISO3200相当 動画:オート
セルフタイマー	作動時間 約10秒、2秒、トリプルセルフタイマー
フラッシュモード	フラッシュオート／発光禁止／ 強制発光／ソフト発光／赤目軽減機能
フラッシュ撮影範囲(ISO感度オート時)	約0.2～約3.5m(W端) 約0.5～約1.9m(T端) ※ 光学ズームにより範囲は変化します。
フラッシュ充電時間	約5秒
撮影／録音関連機能	静止画撮影(オート撮影／プレミアムオート撮影)、超解像高画質撮影、超解像ズーム撮影、マクロ撮影、セルフタイマー撮影、ベストショット撮影、スライドパノラマ撮影、人物メイクアップ撮影、風景メイクアップ撮影、顔検出撮影、ダイナミックフォト、動画撮影(HDムービー、YouTube)(モノラル音声付き)、位置情報付き静止画／動画撮影(緯度経度情報、カメラを向けた方向、地名)、地名スタンプ撮影
画像モニター	3.0型TFTカラー液晶 (高性能クリア液晶) 460,800(960×480)ドット
ファインダー	液晶モニター
時計機能	クォーツデジタル時計内蔵 日付・時刻: 画像データと同時に記録 自動カレンダー:2049年まで 自動時刻修正(GPS情報による補正)
ワールドタイム	世界162都市(32タイムゾーン)に対応 都市名、日付、時刻、サマータイム 自動時刻修正(GPS情報による補正)
外部接続端子	USB端子(Hi-Speed USB対応)／ AV出力端子(NTSC/PAL) HDMI output(ミニ)
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
電源	リチウムイオン充電池 (NP-90)×1個

電池寿命

下記の電池寿命は温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

撮影枚数(CIPA)※1	約600枚
連続再生時間(静止画)※2	約5時間40分
動画連続撮影時間※3	約3時間20分

- 使用電池:NP-90(定格容量:1950mAh)
- 記録メディア:SDメモリーカード1GB(SDメモリーカードはパナソニック(株)製のPRO HIGH SPEED SDメモリーカードの場合です)
- 測定条件

※1 撮影枚数(CIPA)
CIPA(カメラ映像機器工業会)規準に準ずる
温度(23℃)、液晶モニターオン、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、フラッシュ発光(2枚に1回)、10回撮影に1度電源を切/入操作

※2 連続再生時間
温度(23℃)、約10秒に1枚ページ送り

※3 動画連続撮影時間は動画を10分撮影毎に、ファイルを全消去した場合の動作時間
16GB SDHCメモリーカード使用

- 前記は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- フラッシュ、ズーム、オートフォーカス、GPSの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

消費電力	DC3.7V 約3.6W
外形寸法	幅102.5mm×高さ67.5mm×奥行き28.8mm (突起部除く奥行き24.7mm)
質量	216g(電池及びメモリーカード含む) 172g(電池及びメモリーカード除く)

■ リチウムイオン充電池(NP-90)

定格電圧	3.7V
定格容量	1950mAh
使用周囲温度	0～40℃
外形寸法	幅34.0mm×高さ52.3mm× 奥行き10.9mm(突起部含まず)
質量	約42g

■ 充電器(BC-90L)

入力電源	AC100－240V 200mA 50/60Hz
出力電源	DC4.2V 1000mA
使用周囲温度	5～35℃
適合電池	リチウムイオン充電池(NP-90)
充電時間	約3時間20分
サイズ	幅57mm×高さ24mm× 奥行き96mm(突起部含まず)
質量	約70g

別売品

- リチウムイオン充電池 NP-90
- ソフトケース ESC-270
- ネックストラップ ENS-2
- ネックストラップ ENS-4
- ネックストラップ ENS-5

別売品は、お買い求めの販売店、または
カシオ・オンラインショッピングサイト
(e-カシオ)にご用命ください。
e-カシオ: http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、
カシオデジタルカメラオフィシャル
Webサイトでもご覧になることが
できます。
http://casio.jp/dc/

索引

英数字

あ

か

さ

た

な

わ